

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 2005251218A
(43) Date of publication of application: 15.09.2005

(51) Int. Cl G06F 3/02
G06F 3/03

(21) Application number: 2005099635
(22) Date of filing: 03.03.2005
(62) Division of application: 10012029

(71) Applicant: SAITO, SHIGERU, KENCHIKU
KENKYUSHO:KK
(72) Inventor: SAITO, NORIHIKO

(54) TOUCH OPERATION TYPE COMPUTER

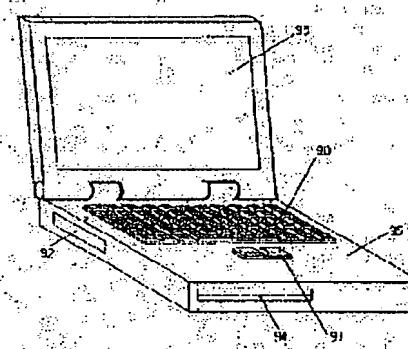
(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To realize diversification and multiplication of function of an input means to improve operability in a computer device.

SOLUTION: In an information terminal having a structure with a keyboard attached thereto, pointing operation along with keyboard input is enabled without moving a palm by adding a keyboard comprising keys each formed by attaching a contact detection sensor to a key top. By installing a touch detection means composed by continuously distributing and arranging, at equal intervals or nonuniformly, touch detection sensors on a linear, flat curve-shaped or space curve-shaped track, and a click switch means in a portable information terminal such as a PDA (personal digital assist), a PC

card type information terminal, an IC card type information terminal or an IC card of a credit card size, capacitive input and input of a contact event are enabled by finger touch.

COPYRIGHT: (C)2005,JPO&NCIPI



(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2005-251218

(P2005-251218A)

(43)公開日 平成17年9月15日(2005.9.15)

(51) Int. Cl.⁷

G06F 3/02

G06F 3/03

F.I

G06F 3/02

G06F 3/03

310P

380L

テーマコード(参考)

5B020

5B068

審査請求 有 請求項の数 31 頁面 (全 39 頁)			
(21)出願番号	特願2005-99635 (P2005-99635)	(71)出願人	300078361
(22)出願日	平成17年3月3日(2005.3.3)		株式会社雷藤繫連業研究所
(62)分割の表示	特願平10-12029の分割		東京都新宿区西新宿4丁目3-2番地1-1号
原出願日	平成10年1月6日(1998.1.6)	(72)発明者	セントピラ水谷1-1-1号
(特許庁注: 以下のものは登録商標)			君護 意茂
1. ポケットベル			東京都新宿区西新宿4丁目3-2番地1-1号
		Fターム(参考)	セントピラ水谷1-1-1号
		5B020 AA12 AA13 AA15 BB02 EE01	
		5B068 AA05 BB01 BC02 BC04 BD13	
		BD17 DE03	

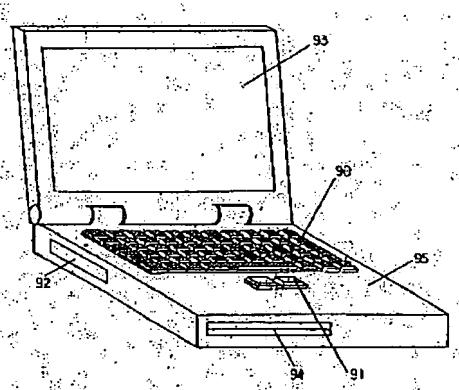
(54)【発明の名称】タッチ操作型コンピュータ

(57)【要約】

【課題】本発明はコンピュータ装置において、入力手段の多様化と多機能化を図り、操作性を向上させる。

【解決手段】キーボードを付設する構造の情報端末において、キートップに接触検知センサーを付設したキーの複数によってなるキーボードを付設することによって、キーボード入力と共にポインティング操作を手のひらの移動無しに可能とする。また、P.D.A.(パーソナルデジタルアシスト)、PCカード型情報端末、I.Cカード型情報端末、クレジットカードサイズのI.Cカード等の携帯情報端末において直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを、等間隔もしくは不均一に分布配置したタッチ検知手段と、クリックスイッチ手段を配設する事により、指のタッチによって容量性入力及び接触イベントの入力が可能となる。

【選択図】図37



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、
キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、
キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーBOARDに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする情報端末装置。

【請求項 2】

演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、
キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーBOARDを付設し、
キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーBOARDに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 3】

演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、
キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーBOARDを付設し、タッチパットを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーBOARDとタッチパットに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする情報端末装置。

【請求項 4】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、
キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーBOARDを付設し、
キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーBOARDに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする情報端末装置。

【請求項 5】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、
キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーBOARDを付設し、
キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーBOARDに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 6】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、
キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段によ

る接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、タッチパットを付設し、キートップに
ある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーボードとタッチパットに
接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする情報端末装置
。

【請求項 7】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末
装置において、

キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンま
たはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、
各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段によ
る接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、タッチパットを付設し、キートップに
ある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーボードとタッチパットに
接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端
末装置。
10

【請求項 8】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるパーソナルコン
ピュータにおいて、

上記キーボードを付設したことを特徴とするパーソナルコンピュータ。

【請求項 9】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型パーソナ
ルコンピュータにおいて、
20

上記キーボードを付設したことを特徴とする携帯型パーソナルコンピュータ。

【請求項 10】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるワークステーシ
ョンにおいて、

上記キーボードを付設したことを特徴とするワークステーション。

【請求項 11】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるワードプロセッサ
において、
30

上記キーボードを付設したことを特徴とするワードプロセッサ。

【請求項 12】

上記接触操作型キーボードの代わりに、キーボード付設基板もしくは、キートップとキー
ボード付設基板の間に非接触検知センサーを付設し、キーボード上の指もしくは手のひら
の位置を検出する手段を付設したことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 11 に記載の情報
処理装置。

【請求項 13】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末
装置において、

直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを
配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力され
る接触点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加
速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端
末装置。
40

【請求項 14】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末
装置において、

物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段と、直線または
平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッ
チ検知手段と、を一体化した入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力され
る接触点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加
速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端
末装置。
50

速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 1-5】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるPDA (Personal Digital Assistant)において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とするPDA (Personal Digital Assistant)。 10

【請求項 1-6】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるPDA (Personal Digital Assistant)において、物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段と、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段と、を一体化した入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とするPDA (Personal Digital Assistant)。 20

【請求項 1-7】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるICカード型情報端末において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とするICカード型情報端末。 30

【請求項 1-8】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるICカード型情報端末において、物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段と、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段と、を一体化した入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とするICカード型情報端末。 40

【請求項 1-9】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるPCカード型情報端末において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持ち、情報端末に接続する手段を持つことを特徴とするPCカード型情報端末。 50

【請求項 2-0】

以上のキーボードもしくは、以上の入力装置と検知計算する手段を持ち、尚かつ通信手段を持つことを特徴とする請求項1乃至請求項1-9に記載の情報処理装置。

【請求項 2-1】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと太陽電池とを備えるカード型情報端末において、

直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接觸点から、検知する情報として、接觸イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とするカード型情報端末。

【請求項 2-2】

演算装置と、メモリとを備える I-C カードにおいて、直線または曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接觸点から、接觸及び感圧によってそのタッチ位置に応じた信号もしくは電圧を検知し、接觸イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とする I-C カード。10

【請求項 2-3】

文字表示手段もしくは発光素子による発光手段と、演算装置と、メモリとを備える I-C カードにおいて、

直線または曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接觸点から、接觸及び感圧によってそのタッチ位置に応じた信号もしくは電圧を検知し、接觸イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とする I-C カード。20

【請求項 2-4】

文字表示手段もしくは発光素子による発光手段と、演算装置と、メモリとを備える I-C カードにおいて、

直線または曲線状の所定の軌跡上にタッチ検出センサーを粗密を持って分布配置したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接觸点から、接觸及び感圧によってそのタッチ位置に応じた信号もしくは電圧を検知し、接觸イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことを特徴とする I-C カード。20

【請求項 2-5】

上記表示手段には、複数の項目と、それらのうち現在どの項目が選択されているかを明示するカーソルなどを表示する表示手段を持ち、上記入力装置により繰り返し接觸検出し、検知計算したイベント情報とカーソルを同期させて移動する手段を持つことを特徴とする請求項 2-2 乃至請求項 2-4 に記載の I-C カード。30

【請求項 2-6】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、該パームレスト部にタッチパットと、を備える携帯型情報端末装置において、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置をタッチパットの周囲部に配設し、該入力装置にタッチする指の位置を検知する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 2-7】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、

直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置とタッチパットと一体化してパームレスト部に配設し、該入力装置にタッチする指の位置を検知する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 2-8】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、

タッチパットの周辺部を、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置とし、タッチパットと一体化してパームレスト部に配設し、該入力装置

40

50

にタッチする指の位置を検知する手段を持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 29】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、

バームレスト部にタッチパットを付設し、該タッチパットの一部を接触不能な状態とし、タッチパットの一部を2次元平面上のポインティングデバイスとする手段と、一部を直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置とする手段とを持つことを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 30】

文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、10

バームレスト部にタッチパットを付設し、該タッチパットの接触面より目視可能にして、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置を着色表示もしくは描き分け、この人力装置として認識できる部位を所定の軌跡線分上のタッチ位置検知手段として用いることを特徴とする携帯型情報端末装置。

【請求項 31】

上記携帯型情報端末装置において、上記入力装置及びタッチパットの周囲部に上記入力装置用のクリックスイッチを設けたことを特徴とする請求項 26 乃至請求項 30 に記載の携帯型情報端末装置。20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、演算処理機能を持つ情報処理装置に関するものであり、人間のタッチ操作によつてオペレーションが行われるコンピュータ全般に対応する。特に、パーソナルコンピュータやワークステーションなどのキーボードを組み合わせた情報端末、更には、複数の入力項目や複数の入力データを持つ、携帯型情報端末及び小型電子機器であつて、これらの入力操作に接触検知の特徴を持たせているものである。特には、携帯型パーソナルコンピュータ、P.D.A.、I.C.カード型情報機器として操作性の向上を図つたものである。

【背景技術】

【0002】

従来情報処理の分野では情報処理装置に於いて、ポインティングデバイスとしてマウスを主に用いていた。これは手のこぶしほどの装置を机上で転がすことによってその変移値をコンピュータに入力するデバイスである。あまりにも一般的なので詳細説明は省略する。また、ポインティングデバイスとしてはトラックボールやジョイスティックなどが用いられている。携帯型パーソナルコンピュータでは指先の接触入力によるタッチパットが主に用いられている。これらのポインティングデバイスには多くの短所があつ。マウスは、操作性はよいがかさばるものであるし、平らな机上でなくしては使用できない、更にブラインドタイピング中にポインティング操作を行うときにキーボードから手を離す必要がある。タッチパットは入力時、非常に繊細な指の制御が必要となり、これもキーボードから手を離して、注意を集中しながら入力する必要がある。その他殆どのポインティングデバイスも操作時にキーボードから手を離す必要がある。これらのポインティングデバイスは、表示画面上の矢印カーソルの移動に用いられることが主である。特に以上で述べた二つのポインティングデバイスを考察するに、タッチパットの操作性からは、単に指先の操作では画面上の矢印カーソルのコントロールは行い難く、マウスの操作性からは、手のひらと手首と腕を用いればコントロールがし易いということがわかる。

【0003】

一方、マイクロプロセッサ等の演算装置とメモリとを搭載した情報端末としては、P.D.A. (Personal Digital Assistant) がある。

これは、例えば、シャープ株式会社の商品で商品名ザウルス、米国アップル社の商品で商品名ニュートン、米国U.S.ロボティックス社の商品で商品名バームパイロット、更にマイ

30

30

40

50

クロソフト株式会社のオペレーティングシステムWindows CEを搭載した小型コンピュータなどに代表されるような携帯情報端末装置である。また、一般的に電子手帳と呼ばれているものなどもPDAと言えるものである。

従来の小型電子機器やICカードやPDAでは、軽薄短小化しているにも関わらず高機能化・多機能化・大量情報保持化している為、ユーザーインターフェースに非常に重大な問題が提起されつつある。小さく薄くなっているのに機能が多くなっているのである。この多機能の実現のために装置自体がプッシュスイッチの固まりと化しているのである。これらの装置では、この高機能化・多機能化・大量情報保持化に対して、例えば、複数のプッシュスイッチを付設したり、液晶表示部の上にタッチパッドを付設しペンや指先などで指示操作する事が行われている。10

従来より、カード型電卓のキー入力部では基板上にマトリクス状に接点を2つずつ配しフィルム状の可動接触子を上方から湾曲させて押下し接点をオンするものがある。しかし、これはあくまで一つずつのキーを押下する入力装置であり、指を滑らせるようにして入力することによって複数の項目の選択を行うアルゴリズムや処理手段を含んでいない。尚かつデータ選択に当たってデータポイントもしくはカーソルのコントロールも指を滑らせることを前提とした目的で行っていない。

さらに、従来より携帯用パーソナルコンピュータにおいてタッチパットが付設されて提供してきた。しかし、近年単純に2次元平面上の変移値を取り込むだけのポインティングデバイスではなくて、1次元上の変移値入力も行うマウスボイントティングデバイスなどが販売されてきている。この1次元上の入力装置が携帯型パーソナルコンピュータでも予め組み込まれて提供されることが望まれている。20

【0004】

また、本願ではにキーボードに接触検知機能が組み込まれるわけであるがこの接触検知構造を持つものとしてはタッチパネル等がある。更に本願では、このタッチパネルとキーボードとの組み合わせについても発明されているが、該タッチパネルの構造及び方式には代表的な物として次の物が公表されている。

1.) 静電誘導式：パネル表面をタッチしたときとタッチしないときとの静電容量変化を、周波数変化、位相変化等の信号変化として検出する二次元平面上タッチ位置検出方式であり、例えば「PCT国際公開番号WO92/08947号公報」、「PCT国際公開番号WO92/14604号公報」、「IEEE COMPUTER SOCIETY PRESS REPORT, A CAPACITANCE-BASED PROXIMITY SENSOR FOR WHOLEARM OBSTACLE AVOIDANCE」, J. L. Novak, J. T. Feddeema, Reprinted from PROCEEDINGS OF THE 1992 IEEE INTERNATIONAL CONFERENCE ON ROBOTICS AND AUTOMATION, Nice, France, May, 12-14, 1994.」「特開平8-77894号公報」等がある。30

2.) 抵抗膜式：X軸用とY軸用に設けた2枚の導電シート上に電位分布を発生させ、そのシートのあるパネル表面をタッチしたときに変わる電圧を検出する2次元平面上タッチ位置検出方式であり、この方式にはさらにアナログ式とデジタル式とがある。例えば「特開昭47-36923号公報」、「特開昭61-208533号公報」、「特開平8-22357号公報」、「特開平8-54976号公報」、「特開平4-4420号公報」、「特開平4-15813号公報」等がある。40

3.) 可動電極方式：2次元平面上でX軸上の位置検出用にY軸と平行に等間隔で一方の電極を複数本配置し、Y軸上にはそれと垂直に電極を複数本配置し、そのうち片方を可動電極とすることによりZ軸方向からの押下をそれぞれの電極の接触により検知する2次元平面上タッチ位置検出方式であり、例えば「特開平4-15723号公報」等がある。

4.) 光学式検知方式：2次元平面上でX軸上の位置検出用に、X軸と交わってY軸と平行な線分上の両端に赤外線LEDおよびフォトトランジスタを等間隔に配置し、Y軸上の位置検出用にはそれと垂直な線分上の両端に赤外線LEDおよびフォトトランジスタを等間50

隔に配置し、Z軸方向からの押下によって光ビームを遮った位置及び範囲を検知する2次元平面上タッチ位置検出方式であり、例をば「特開平2-53129号公報」「特開平5-35403号公報」等がある。

その他、直流抵抗検知方式、電磁誘導式、超音波検知方式、可動接触子押下方式が知られている。

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

まず情報処理端末と携帯情報処理端末と小型情報処理端末は通常キーボードによって情報入力が行われる。このキーボードには一般的には上下左右を指示する矢印キーが付いておりこれによりカーソルの移動を行う。しかし、ポインティングデバイスによる矢印カーソルは、この矢印キーによつては制御しない。キーボード自体には矢印カーソルの変移を制御する機能は持たせていないことが普通である。しかし、タッチパットと異なりキーボードは手のひらと手首と腕による変移の殆どを受け止めるだけの十分な面積がある。この面積を有効に用いたポインティングデバイスが組み込めるはずである。

特に、携帯型パーソナルコンピュータや携帯型ワクステーションではキーボードとポインティングデバイスと表示画面とCPUとが一体化されており、キーボードは装置全体にとって不可欠の機能を提供する構成部分である。このキーボードにポインティングデバイスの機能を持たすことが出来れば非常に操作性の良い携帯型コンピュータが提供できる。

【0006】

一方、マイクロプロセッサ等の演算装置とメモリとを搭載した情報端末であるところの、従来の小型電子機器やICカードやP.D.Aでは、多機能、高機能、大量情報保持に伴つて機器内部のマイクロプロセッサやメモリ等の高集積化は非常に進歩発展している。これに伴つてハードウェアによるユーザーインターフェースもこれらの入力をより少ない部品数でより効率的に行なえるものへと進化させる必要がある。現状では、これらに付設してあるタッチパネルは指先で直接触れれば表示画面が汚れてしまい使用感が良くない。又ペンで操作する場合には、片手で操作することは出来ない。ジョグダイヤルを組み込んで操作する場合には、P.D.Aや小型電子機器の場合にはある程度の利便性は得られるがICカード型やクレジットカード型などの薄いものについては組み込みが不可能で使用することが出来ない場合が殆どである。

これらの装置に対して、タッチパネルとジョグダイヤル無しで入力を行う場合、単純なプッシュキーの押下により单一のイベント入力をする事になるが、これではキーがいくつあっても足りないのである。さらに、多くの押下イベント入力を行うためには極端に多くのキー押下回数が必要となってしまう。

これを回避するために、電子機器に対して、指先の微妙な動作により、連続するイベント入力が行える入力装置が必要となる。多くのイベント入力を速やかに行うために、キーを押下したままでいると項目が送られていくプッシュキーがあるが、人間の感覚としては時間よりも指先の移動の方が認識しやすい。

ここで機構としては、連続して複数個もしくは連続して紐状の軌跡に配置したタッチイベント検出機構がある。これを用いて有効にこのタッチイベントを電子機器に取り込む事が出来る。更に、多くの機能と、大量の情報と、の選択をスムーズに行うため、機能選択に当たるソフトウェアにおけるプログラムのデータポインタ移動と、ハードウェアにおけるタッチイベント検出と、によつて、連続したタッチ検知機構を用いて連続したデータ入力と、データポインタもしくはカーソルの移動と、を制御すればよいのである。

一般にコンピュータと呼ばれるデータ処理やデータによる制御を行う情報処理端末として、本願では演算装置とメモリを備えるもので、情報端末装置、携帯型情報端末装置、パーソナルコンピュータ、携帯型パーソナルコンピュータ、ワクステーション、ワードプロセッサ、情報処理装置、P.D.A (Personal Digital Assistant) 、ICカード型情報端末、カード型情報端末、ICカードについて課題を解決している。

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0007】

このため、本発明のコンピュータにあっては、2つの入力機構を組み込み、上述した課題を解決した。

まず、第一の入力機構はキートップにタッチ検出センサーを配したキーボードで、このキーボード上に接触した手のひらの移動を検知し、ポインティングデバイスの機能を發揮する。又このキーボードとタッチパットの組み合わせについても発明している。

そして第二の入力機構は連続して所定の軌跡上に配設したタッチ検出センサーで、この所定の軌跡を連続して倣う指先のタッチ検知により、複数イベントを入力する手段である。また第一の入力機構で用いた、キートップにタッチ検出センサーを設けたキーを所定の軌跡上に連続配置すれば第二の入力機構としても用いることが出来る。両者に共通するものはタッチ検知センサーである。

【0008】

この2つの入力機構を組み込み、応用することにより、以下の発明をした。

第一の発明として、演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーボードに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第二の発明として、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーボードに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第三の発明として、演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、タッチパットを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーボードとタッチパットに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

ことを特徴とする情報端末装置。

第四の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、

キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーボードに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

【0009】

第五の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、

キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、

10

20

30

40

50

各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体によって、キーボードに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第六の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える情報端末装置において、

キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行なうスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、

各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、タッチパットを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーボードとタッチパットに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
10

第七の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、

キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行なうスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、

各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、タッチパットを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーボードとタッチパットに接触した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
20

【0010】

第八の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるパーソナルコンピュータにおいて、

上記キーを付設したことにより、上述した課題を解決した。

第九の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型パーソナルコンピュータにおいて、

上記キーを付設したことにより、上述した課題を解決した。

第十の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるワークステーションにおいて、

上記キーを付設したことにより、上述した課題を解決した。

第十一の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるワードプロセッサにおいて、

上記キーを付設したことにより、上述した課題を解決した。

第十二の発明として、上記接触操作型キーを代わりに、キーを付設基板もしくは、キートップとキーを付設基板の間に非接触検知センサーを付設し、キーを付設基板上の指もしくは手のひらの位置を検出する手段を付設したことにより、上述した課題を解決した。
30

【0011】

第十三の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、

直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有する入力装置を付設し、軌跡上を走って繰り返しタッチ入力される接觸点から、接觸イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
40

第十四の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、

物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行なうスイッチ手段と、直線または
50

平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段と、を一体化した入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

【0012】

第十五の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるPDA (Personal Digital Assistant)において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

10

第十六の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるPDA (Personal Digital Assistant)において、物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段と、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段と、を一体化した入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

20

【0013】

第十七の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるI Cカード型情報端末において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

30

第十八の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるI Cカード型情報端末において、物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段と、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段と、を一体化した入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第十九の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備えるP Cカード型情報端末において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接点から、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、一部もしくは全部を検知計算する手段を持ち、情報端末に接続する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

40

第二十の発明として、以上のキーボードもしくは、以上の入力装置と検知計算する手段を持ち、尚かつ通信手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第二十一の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと太陽電池とを備えるカード型情報端末において、直線または平面曲線もしくは空間曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力され

50

る接触点から、検知する情報として、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

【0014】

第二十二の発明として、演算装置と、メモリとを備えるICカードにおいて、直線または曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接触点から、接触及び感圧によってそのタッチ位置に応じた信号もしくは電圧を検知し、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
10

第二十三の発明として、文字表示手段もしくは発光素子による発光手段と、演算装置と、メモリとを備えるICカードにおいて、直線または曲線状の所定の軌跡上に連続してタッチ検出センサーを配したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接触点から、接触及び感圧によってそのタッチ位置に応じた信号もしくは電圧を検知し、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第二十四の発明として、文字表示手段もしくは発光素子による発光手段と、演算装置と、メモリとを備えるICカードにおいて、直線または曲線状の所定の軌跡上にタッチ検出センサーを粗密を持って分布配置したタッチ検知手段を有す入力装置を付設し、軌跡上を倣って繰り返しタッチ入力される接触点から、接触及び感圧によってそのタッチ位置に応じた信号もしくは電圧を検知し、接触イベント個数もしくは長さと、時間と、方向と、速さと、速度と、加速度との内、複数もしくは全部を検知計算する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
20

第二十五の発明として、上記表示手段には、複数の項目と、それらのうち現在どの項目が選択されているかを明示するカーソルなどを表示する表示手段を持ち、上記入力装置により繰り返し接触検出し、検知計算したイベント情報とカーソルを同期させて移動する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

【0015】

第二十六の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、該パームレスト部にタッチパットと、を備える携帯型情報端末装置において、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置をタッチパットの周辺部に配設し、該入力装置にタッチする指の位置を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
30

第二十七の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置とタッチパッドと一体化してパームレスト部に配設し、該入力装置にタッチする指の位置を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。

第二十八の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、タッチパッドの周辺部を、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置とし、タッチパットと一体化してパームレスト部に配設し、該入力装置にタッチする指の位置を検知する手段を持つことにより、上述した課題を解決した。
40

第二十九の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、パームレスト部にタッチパットを付設し、該タッチパットの一部を接触不能な状態とし、タッチパットの一部を2次元平面上のポインティングデバイスとする手段と、一部を直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置とする手段とを持つことにより、上述した課題を解決した。
50

第三十の発明として、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリと、キーボードと、を備える携帯型情報端末装置において、パームレスト部にタッチパットを付設し、該タッチパットの接触面より目視可能にして、直線または曲線状の所定の線分軌跡上にタッチ検出センサーを配置した入力装置を着色表示もしくは描き分け、この入力装置として認識できる部位を所定の軌跡線分上のタッチ位置検知手段として用いることにより、上述した課題を解決した。

第三十一の発明として、上記携帯型情報端末装置において、上記入力装置及びタッチパットの周囲部に上記入力装置用のクリックスイッチを設けたことにより、上述した課題を解決した。

【作用】

10

【0016】

第一の発明により、本発明のコンピュータである情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となる。

第二の発明により、本発明のコンピュータである携帯型情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となる。

第三の発明により、本発明のコンピュータである情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードとタッチパッドとに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となる。

20

第四の発明により、本発明のコンピュータである情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となり、表示画面上のカーソル制御やスクロール表示が効率的に操作性良く行える。

第五の発明により、本発明のコンピュータである携帯型情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となり、表示画面上のカーソル制御やスクロール表示が効率的に操作性良く行える。

第六の発明により、本発明のコンピュータである情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードとタッチパッドとに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となり、表示画面上のカーソル制御やスクロール表示が効率的に操作性良く行える。

30

第七の発明により、本発明のコンピュータである携帯型情報端末装置において、接触検知機能を持ったキーボードとタッチパットとに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となり、表示画面上のカーソル制御やスクロール表示が効率的に操作性良く行える。

【0017】

第八の発明により、本発明のコンピュータであるパソコンコンピュータにおいて、上記作用を可能とした。

40

第九の発明により、本発明のコンピュータである携帯型パソコンコンピュータにおいて、上記作用を可能とした。

第十の発明により、本発明のコンピュータであるワークステーションにおいて、上記作用を可能とした。

第十一の発明により、本発明のコンピュータであるワードプロセッサにおいて、上記作用を可能とした。

第十二の発明により、本発明のコンピュータにおいて、キーボードに組み込まれた非接触センサーに対して手のひらを押し付け滑らせることによりポインティング操作が可能となる。

第十三の発明により、本発明のコンピュータである携帯型情報端末装置において、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能と

50

なり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。また更に速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。

第十四の発明により、本発明のコンピュータである携帯型情報端末装置において、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。また更にスイッチ手段との機能を一体化した構成をとることにより、アナログ的な入力操作とデジタルのオンオフ操作が、同一部位によつて指先の移動無しに可能となる。10

【0018】

第十五と十六の発明により、本発明のコンピュータである PDA (Personal Digital Assistant)において、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。また更にスイッチ手段との機能を一体化した構成をとることにより、アナログ的な入力操作とデジタルのオンオフ操作が、同一部位によつて指先の移動無しに可能となる。

第十七と十八の発明により、本発明のコンピュータである I C カード型情報端末において、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。また更にスイッチ手段との機能を一体化した構成をとることにより、アナログ的な入力操作とデジタルのオンオフ操作が、同一部位によつて指先の移動無しに可能となる。20

第十九の発明により、本発明のコンピュータである PC カード型情報端末において、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。また更に速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。

第二十の発明により、本発明の通信手段を持つコンピュータにおいて、上記作用を可能とした。30

第二十一の発明により、本発明のコンピュータである、太陽電池を備えるカード型情報端末において、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。また更に速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。

【0019】

第二十二の発明により、本発明のコンピュータである I C カードにおいて、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。また更に速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。40

第二十三の発明により、本発明のコンピュータである文字表示手段もしくは発光素子による発光手段を備える I C カードにおいて、軌跡上に連続に並べた接触検知部を持つことによって一次元上の変移値を入力することが可能となり連続するデータのポインタやカーソルなどの一次元上の定まった変移やスクロールを指示入力できる。また更に速さと速度と加速度とを検知計算することによりポインタやカーソルの制御において早送り処理が可能となる。

第二十四の発明により、本発明のコンピュータである文字表示手段もしくは発光素子に50

ある発光手段を備える I C カードにおいて、粗密を持って分布配置したタッチ検知手段を用いることにより、上記処理を可能とすると共に、軌跡上のタッチ部位によって入力イベント数を変えて連続入力を可能とする。

第二十五の発明により、本発明のコンピュータである I C カードにおいて、連続入力をしたイベントに同期させてカーソル表示を行い複数項目や複数データの選択や複数データの入力を自視しつつ行うことが可能となる。

第二十六の発明により、本発明の携帯型情報端末において、パームレスト部から 1 次元上の変移値を入力できる。

第二十七乃至三十一の発明により、タッチパッドと一体化して 1 次元上の変移値入力をを行う入力装置を構成していることから、メシテナシス性よく、組立工程少なく、操作性もより良い携帯型情報端末が構築できる。
10

【発明を実施するための最良の形態】

【0020】

以下図面を参照して本発明の実施の形態を次の目次の順に説明する。

- (1) タッチ検知手段の構成
- (2) キートップにタッチ検知部を持つキーの例
- (3) 接触操作型キーボードの例
- (4) キーの集合体による入力装置例
- (5) 接触操作型キーボード及び入力装置の電子回路を表すブロック図の例
- (6) タッチ検知スイッチ（接触操作型入力装置及び電子部品）の例
- (7) 接触操作型入力装置を組み込んだ場合のコンピュータシステムの回路構成例
- (8) 本発明の携帯型情報端末の実施例
- (9) 本発明の P D A の実施例
- (10) 本発明の I C カード型情報端末及び P C カード型情報端末の実施例
- (11) 本発明の I C カードの実施例
- (12) 接触操作型入力装置を組み込んだ本発明の携帯型情報端末の実施例

【0021】

(1) タッチ検知手段の構成

具体的なタッチ検知センサーを用いたタッチイベント検知回路構成についてでは以下のようなものがある。すなわち、主に接触及び感圧によってそのタッチ位置に見合った信号もししくは電圧を出力する回路である。
30

【0022】

タッチ検出センサー部のタッチ位置検知手段として静電誘導式検知手段（静電容量タイプ）を使用した構成について説明すれば、これは指等の接触を検知するためにガラス等の不導体を介して複数個のコンデンサー C₁, C₂, C₃, … を配置し、接触および接近によってこのそれぞれのコンデンサー C₁, C₂, C₃, … の容量が変化する事を検知する方式である。ここではコンデンサー C₁, C₂, C₃, … は連続して配置する。図 1 に示すように、連続して配置したコンデンサー C₁, C₂, C₃, … に対してパルス発生回路 1 より、デコーダとカウンタを内蔵したキャンドライプ回路 2 を介して順番に電圧をかけることにより C R 移相発信回路 3 より発生した周波数信号を周波数比較回路 4 へ送り、この信号と、予め前記パルス発生回路 1 よりコントロール回路 5 を介して周波数比較回路 4 へ送られた基準信号とを比較し、さらに周波数比較回路 4 からの信号と前記コントロール回路 5 からの基準信号とを判定回路 6 に同時に送りそこで両信号を判定することにより接觸によって変わったコンデンサー容量を検知して指の接觸位置を検知するのである。

またこの方式では非接觸であってもコンデンサー容量が変化するので十分に検出精度を高めれば非接觸型のキーボードができる。該回路の基本構造は同じである。

【0023】

タッチ検出センサー部のタッチ位置検知手段として光学式検知手段（赤外線検出タイプ）を使用した構成について説明すれば、これは指等のタッチ検知を行うキートップの下部

10

20

30

40

50

に図2に示すような1対1で対応する関係で例えば赤外線発光ダイオード(LED)等の発光素子7と、例えばフォトトランジスター等の受光素子8とを一組ずつキートップに連続して配設し、この受光素子8をデマルチプレクサ9によって順番に発光させ、発光した光をマルチプレクサ10により同期して受光素子8で受ける方式である。この時、受光素子8で受けた光の受光レベルを判定回路6により検出し、光のレベルの判定を行うことで指のタッチ位置を検知するのである。12はコントロール回路であり、前記デマルチプレクサ9、マルチプレクサ10、判定回路6に接続され、それぞれの回路機能を制御している。また、図2の点線で囲んだ部分であるA/D変換器13を前記マルチプレクサ10と判定回路11との間に介設させれば、接触点に対してアナログ値の検出を行うことができ、更に検知精度を向上させることが出来る。

この方式でも、下方から発光素子よりの光を発する形に付設した場合、十分な発光と検出精度により非接触型キーボード及び入力装置が構成できる。本来この光学式検知手段は非接触型であるともいえる。

【0024】

タッチ検出センサー部のタッチ位置検知手段として直流抵抗検知方式を使用した構成について説明すれば、これは指等の接触検知を行うタッチ位置に金属接点を付設し、図4に示すような検出回路に示すごとく、例えば入力動作抵抗が $2\text{ M}\Omega$ であって金属接触接点スイッチSW1～SW7間を跨って接触した指等の高抵抗を検出し、高抵抗検出電子スイッチモジュールSMを介して出力レベルOUT1～OUT7をHIGH, LOWの2値に変動させる物としてあり、主として金属に触れたことを検出するスイッチとして用いられている物である。

【0025】

タッチ検出センサー部のタッチ位置検知手段として抵抗膜式検知手段(抵抗膜電極タイプ)を使用した構成について説明すれば、図6に示すように、これは電極Aと電極Bなどを均質な抵抗膜15を挟んでこれに駆動電圧と接地電圧をかけて電位分布Qを発生させるものである。そして、図7に示すように、この抵抗膜に導体から成る電極16を抵抗膜15と平行して上部もしくは下部に配設し、指等のタッチにより抵抗膜15と、平行した電極16とを接觸導通させ、その接觸により変化した電圧を電圧測定器17でもって測定することにより接觸点の位置を検出するものである。以上説明したように各種の検知手段によれば、接觸点をその軌跡に1対1に対応させた1次元座標上の位置データとして出力されるものであり、特にアナログ式に十分近い場合では指先の動きでもって方向が容易に認識出来ると共に、デジタル式でもポイント数が多い場合には認識可能となるものである。

【0026】

タッチ検出センサー部のタッチ位置検知手段として可動電極式検知手段(可動電極スイッチタイプ)を使用した構成について説明すれば、図8(a)に示すように、これは軌跡上に連続して配設した例えば直線上の電極と、スペーサ21を介して間隔をあけて断続して配設した電極との内いずれか一方を可動電極22とし且つ他方を固定電極23とし、指等による圧潰力でもってこの可動電極22を固定電極側に湾曲接続させその接點の通電位置と時間から指の接觸点を検出するものとしてある。図8(b)ではコントロール回路18によりカウンタ19を起動し、デコーダ20からは順番に接点S1, S2, S3, …と検知して行く。この時オンされた接点の部分で電圧がLOWになり接觸点が検知できるのである。

【0027】

上記方式とほぼ同じ構成であるがタッチ検出センサー部のタッチ位置検知手段として可動接觸子方式を使用した構成について説明すれば、図9に示すように、軌跡上に連続して配設した2個で一組となる接点S1乃至S5に可動接觸子M1乃至M5を接觸させることにより軌跡上の接觸位置もしくは接觸イベントを検出する。図10(a)は上面に突起24を持ち、下面に導体26を持つフィルム状の可動部27と、スペーサ21と接点Sを持つ基板23で構成されており、指等による圧潰力でもってこのフィルム状可動部27を接点側に湾曲接続させ接点Sを短絡し、その接点の通電位置と時間から指の接觸点を検出す

るものとしてある。(b) ではこの方式によるスイッチを IC カードに付設した状態を示す。

その他、電磁誘導方式、超音波検知方式等のタッチ検知方式等に応用することもできる。

【0028】

(2) キートップにタッチ検知部を持つキーの例

キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーは、例えば図 1.1 (a) のようにキートップに接触検出センサー 2.8 を付設し、1つの接触を検知する手段を持たせたもの、または図 1.1 (b) の様にキートップに複数の接触検出センサー 2.8A、2.8B、2.8C、…を付設し、接触を検知する手段を持たせたもの、または図 1.1 (c) の様にキートップにタッチパット 2.9 を付設し、接触を検知する手段を持たせたものを用いる。このとき、接触検出センサー付設部 3.0 を押下することにより通常のキー入力を行う。導電路については、キー自身の内部を通すもの、ケーブルで中を通すもの、接触ピンを用いるもの、弹性接点脚を用いるもの、(d) のようにケーブル 3.1 で外を這わすもの、ばね接点そのものを用いるもの、弹性体自身を導体で構成し導電路として用いるもの等によって、構成できる。

図 1.1 に示したキートップに接触検出センサーを持ったキーの内部構造の一例を図 1.2 に示す。これは接触検出センサー 2.8 に指先を接触させることによりキートップである接触検知部 3.0 から電気信号又は電圧を発生させて接点 3.7 より導電路となる弹性接点脚 3.8 より外部接続用の端子 3.2 から基板 3.9 上の導電路にこれを伝える。該接触検知部 3.0 はバネ体 4.0 により一定方向に付勢されており、キートップを弾発付勢に抗して押下したときはガラス管 4.1 内部の接点 4.2 が磁石 4.3 によって接触し、スイッチ手段がオンとなる。この接点 4.2 のスイッチ手段の代わりに弹性接点脚と接点を用いる事もできる。

【0029】

図 1.3 に示したものはキートップに接触検出センサー 2.8 を持ったキーの一例であり、可動接触子 4.4 を用いて接点 3.3A と接点 3.3B を導通させスイッチ手段をオンさせるもので、接触検知部の保持と付勢をする為にゴム状の弹性体 4.5 を用いている。

図 1.1、図 1.2、図 1.3 に示すようなキートップに接触検知部を設けたキーの導電路については、キー自身の内部を通すもの、ケーブルで外を這わすもの、ケーブルで中を通すものの、接触ピンを用いるもの、上記のように弹性接点脚を用いるもの、ばね接点そのものを用いるもの、弹性体自身を導体で構成し導電路として用いるもの、等によって構成できる。ケーブルは左右に接触しないよう箇を垂設してその中を通してても良い。

キートップは一般には指の座りがよいよう凹型であるが本発明に用いるキーはキートップが凸型あるいは台形もしくは平らが好適である。更に断面が台形のとき頂上部の平面の内、中心部分が凸型もしくは凹型に成っていても良い。

また、キーボードを含む本発明の入力装置で用いられるキーは、クリックボタン、プッシュスイッチなど、圧力押下を伴うスイッチ手段が主であるが、このスイッチ機構はモンタリイ式、オルタネイト式、ロック式であってもよい。

以上図 1.1、図 1.2、図 1.3 に例示したようなキートップに接触検知部を設けたキーを図 1.4 の断面図に示す如く連続して配置することにより、上記で例示したような回路の接觸あるいは非接觸検知機能を有効にすることが出来る。図 1.4 の (a) は複数の接触検知部をもつキーによる組み合わせであり、(b) はキートップに接触検出センサーを設けた構造のもの、(c) は (b) と同様であるがキー押下にあたって用いる弹性体を接触検知部と一体化したもの、(d) は非接觸型センサー 4.7 (例えば静電誘導式の非接觸検出センサーあるいは光もしくは音波の反射を利用する光学式、超音波式等) を下部の基板上に配設したものである。

【0030】

(3) 接触操作型キーボードの例

これを更にキーボード面全体に接触検知あるいは非接觸検出センサーを振り分けるように図 1.5 (a) のごとく配置する。図 1.5 (b) のごとく放射状に配置するか、図 1.6 (

10

20

30

40

50

b.) のように左右に分割配置することもできる。また、網掛け状に分散配置したり、図15 (a) のようであってキー ボード面全体を X Y 平面として捉えられるように個別のセンサーを直交する導電路に結線しても良いし、個別のキートップを 1 単位として縦横に数珠繋ぎに結線したりする事もできる。

図15の (a) をもとに説明を続けると、キートップに接触検知部を設けたキー 3, 6 を (a) のごとく配置し、キー ボード面全体に接触検出センサーを振り分けて展開し、キー ボード面全体を接触検知面と成せば、この面に触れた手のひらの位置を検知計算することが可能となる。ブラインドタイピングのとき指先のホームポジションとなる中段キー A S D F G H J K L ; の A S D F と J K L ; の中間に当たる G と H の部分で接触検知制御を分割してもよい。

ここでは、既存のタッチパネルにあるような制御処理方式の指先によるポイントティング動作ではなく手のひらによるポイントティング動作の入力制御処理を行う事が好適である。一方、図16 (a) の様に連続して軌跡線上に配置した場合は、指先による単純接触入力動作や、指先の滑りによる連続アカログ入力を、受け付ける処理にすることもできる。この場合、制御方式は、キートップを接触することにより検出する方式と、連続して 2つを接触することにより検出する方式と、ある。

クリック入力においては、図17 (a)、(b) の如く親指の位置にクリック用のキーもしくはボタンなど (4.8 A、4.8 B) を設けても良いし、同じ位置で手のひらを上げ下げすることによってクリック動作として認識する処理としてもよい。又、クリックキーについては、複数設けそのうち 2つをポイントティングデバイス用、1つを上下スクロール用、1つを処理切り替え用、等にして構成することもできる。制御処理切換等についてはキー ボードキーを用いて行うこともできる。

【0031】

キー ボード配列や構成については、アスキーや JIS 、親指シフトキー等の日本語専用キー ボード、人間工学的に考えられたような立体的エルゴノミクスキーボード等でもよい。キー ボード全体の上面は手のひらが触れたまま移動できれば下側に反り返ったり、突出した曲面でも良い。

本発明のキー ボードを制御する手段の一例をオペレーション側から説明すると、例えば図18 の如くパーソナルコンピュータの表示部 (a) と本キー ボード (b) である。まず、ブラインドタイピングにおいては、両手の親指以外の指を A S D F J K L ; キーにタッチした状態でオペレーションを開始する。これがホームポジションである。右手の接触入力操作に当たっては左手をホームポジションに置いたまま右手の手を図18 の (b) の如くキー ボードに乗せる、ここでキー ボードに接触した接触キートップの数が 8箇所以上となる。この接触キートップの数を認識して接触入力オペレーションがスタートする。この状態から手のひらを移動すると手のひらを接触したまま手前に引くと画面上の矢印カーソルが下方に移動する。図19では、同様にして手のひらを手前に引くと画面の表示がスクロールする例である。手のひらの動作を前後に限定した場合で説明すれば、手のひらを接触したまま手前に引けばカーソルは下方に移動し、手のひらを接触したまま前方に押し出せばカーソルは上方に向かって移動する。手のひらを接触面から離して前方に出し再び接触させて手前に引けばカーソルは連続して下方に移動することとなる。横方向についても手のひらを右に送ればカーソルも右に、図18 (b) のように手のひらを接触させたまま円を描けばカーソルも円を描いて移動する。

以上のオペレーションの入力を受け付ける場合、指先であることと、手のひらであることとの違いをのぞけば通常のタッチパネルの方式とほぼ同様である。

特に大きな違いは、通常のタッチパネルでは指先がパネルからはみ出さないと言うことである。しかし、手のひらはキー ボード全体から容易にはみ出してしまう。この状態を吸収するために、接触検出アルゴリズムの中に手のひらの輪郭を検出する手段を持たせるか、接触点の数を計算するか、該両方を行なう事により、キー ボード上の手のひらの位置を決定させてもよい。

接触検知処理をこのキー ボードが行なう場合、ブラインドタイピングの時左右のホームポ

10

20

30

40

50

ジションである「A S D F」と「J K L ;」に置かれた指の接触検知に用いない方の4つを無視する方法をとってもよい。また、予め右半分もしくは左半分を無視する設定が行えるようにしても良い。

また、小型携帯情報端末の場合、単純にキーボード上に接触した接触面積の大きさによって接触検知処理のスタートとしてもよいし、所定のクリック動作によって、キーボード面の全体を接触検知部として動作させるきっかけとしても良い。

【0032】

(4) キーの集合体による入力装置例

図20で示したものは、キートップにタッチ検知センサーを付設したキー36を軌跡上に配置し、指先を各キートップ間を跨って滑らせるように移動し、軌跡上の接触イベントもしくは移動距離を入力させる形態を持つ入力装置の実施例である。図20(a)は装置前面のボタン上に縦一列の軌跡上に配設、(b)は縦一列と交わる横一列に配設、(c)は縦二列に配設、(d)は縦3列もしくは放射状に配設したものである。

入力装置の操作例として、図21(a)は本発明の入力装置を組み込んだ情報処理装置の入力操作部を表す例で、キートップに接触検出センサーをつけたキー36を直線上に配設した電子機器である。50はスピーカ、51は発光素子LEDである。操作に当たっては(b)、(c)のように上から下に親指をキートップに接触させながら移動すると、連続して接触によるイベント入力ができる。このとき、接触によって発生した接触イベントに同期して、スピーカ50から音声もしくは図の如くLED51を発光させても良い。イベントが必要数入力できたとき、(d)のようにそのまま接触しているキーを押下する。これにより目的の機能やデータなどの選択が確定される。

同一方向に連続して指を持ち上げながら繰り返し做うことにより方向性を持った入力イベントを連続して入力することもできる。

【0033】

(5) 接触操作型キーボード及び入力装置の電子回路を表すブロック図の例

図22は本発明のキーボードと入力装置の回路構成の一例を表すブロック図である。接触検出部55は上記(1)で説明の接触・非接触検出センサーをX軸とY軸として交差させて配置し、接触・非接触検知回路53により信号を取り込み、演算制御部を持つコントロール回路52から通信インターフェイス回路54を経由してコンピュータ等へ向かって接触イベントもしくは接触位置データ等を送出する。単に1次元上の変位値に対応した接点を検知する場合や数珠繋ぎに配置した接触検出センサーによって接触検知部を構成する場合は上記(1)で説明した回路部はX軸接触センサーとして直列に配列した構成となる。

キーボード及び入力装置の圧力スイッチ部56はキーボードエンコーダ回路57により交差する圧力スイッチの接点から入力を取り込みコントロール回路を経由して通信インターフェイス回路からデータを送出する。発光および音声を発生させる場合は、例えば接触イベントなどと同期してコントロール回路よりLED51やスピーカ50からこれを発生させる。

発光・発音についてはホストコンピュータ側で出してよい。

【0034】

(6) タッチ検知スイッチ(接触操作型入力装置及び電子部品)の例

上記で説明した(1)タッチ検知手段による軌跡上のタッチ検知手段から大きくは2つの形態のタッチ検知スイッチが発明されている。1つは軌跡上のタッチ検知手段と別にスイッチ手段を付設する形態で図23の(a)、(b)、図25の(e)、(f)に示されるスイッチである。この形態に於いては既存のカード型電卓などで構造上似通つたものが販売されているが繰り返し軌跡上を倣った指先によるイベント取り込みと、データ取り込みと、カーソル移動と、を行う手段を持ったものはない。

2つ目は軌跡上のタッチ検知手段とスイッチ手段を一体化した形態のものである。

図23により軌跡上のタッチ検知手段の説明を行う。図23の(a)では直線状の軌跡にタッチ検知部58を設けスイッチを平行して付設する。この形態をとれば指の倣い動作

10

20

30

40

50

後、直ちにスイッチの押下動作に移れる。(b)では曲線状の軌跡にタッチ検知部5.8を構成したものである。この場合も円弧状の検知部の倣い動作後、直ちにスイッチ5.9を押下できる。(c)は複数の直線状の軌跡を直交して設けたもの、(d)はタッチセンサーの付設密度を変えて複数配設したものである。

図2.4は疎密を持ってタッチ検知センサーを配設したものである。(a)は向かって右側の密度を上げてある。このことにより右側の部分を倣った場合は入力イベント数が多くなりより沢山の項目入力等ができる。また、指先の繊細な入力動作によって、より効率的に情報処理装置の入力操作が可能となる。(b)は左右部分の検出密度を上げたもの、(c)は円形の軌跡上に疎密を持って接触検出センサーを配置したもので、下方の密度を上げてあるもの、(d)も同様円形に配置したもので、反時計回りに密度を上げていくものである。
10

【0035】

特にICカードの内で、クレジットカード型の情報処理装置では、図2.5のように金属板等の硬質板K上に基板2.3を付設し、基板上に2つで一組の接点Sを設けスペーザ2.1を介して突起2.4が上面に付設されたフィルム状シートの下部に導体より成る可動接触子を設け、図のように上方よりの押圧もしくは上下よりの指による押圧によりタッチイベントを発生させ、この指のスライド等により入力項目の制御を行うスイッチがある。図2.5(b)はICカードの疎密を持って構成した直線軌跡上のタッチ検知入力装置である。これについては、距離と入力イベント数は比例しない。タッチ位置により入力イベント数は異なる。
20

図2.6では、縦長の携帯情報端末装置の場合のスイッチ付設例を示す、(a)では装置前面の中央近傍に軌跡として横一直線に配設したり、(b)のように装置前面の中央近傍に軌跡として縦にタッチ位置検知センサーを配設したり、(c)のような曲線上の軌跡にして装置前面の中央近傍にスイッチ手段と共に配設したりすることができる。また、装置側面の上部に(d)のごとく直線状の軌跡にタッチ位置検知センサーを付設し該周囲にスイッチ手段を付設することもできる。(e)は曲線上の軌跡にして装置全体を握りしめたとき親指による操作がしやすいように親指の動作軌跡に沿って付設し、軌跡の接線と垂直方向に指をスライドさせてスイッチ手段を押下し易くしたものである。(f)は直線の軌跡上に装置側面にタッチ検知センサーを設け軌跡と垂直方向に指を滑らせてスイッチ手段を起動できるように配したものである。また、装置前面の中央近傍に軌跡として円形にタッチ位置検知センサーを配すこともできる。
30

【0036】

続けて図面によって、タッチ検知手段とスイッチ手段とを実現するタッチ検知スイッチ(接触操作型入力装置及びその電子部品)について例を示す。

図2.7のごとく直線上又は曲線上に連続して配置したタッチ位置検知センサー2.8をもつタッチ位置検出部3.0を所定の範囲で水平に動き得るように保持し、このタッチ位置検出部3.0とセンサーからの電気信号又は電圧を伝える導電路となる弹性接点脚6.1を接点付き取付基板3.9に配設し、タッチ位置検出部3.0を通常状態で水平一定方向へ押しつけるバネ体6.2と、バネ体の付勢力に抗して前記タッチ位置入力部を押すことにより動作するよう接点付き取付基板3.9の上にプッシュスイッチ部6.3を設けたもの。
40

図2.8(a), (b)に示すように、直線上または曲線上に連続して配置したタッチ位置検出センサー2.8に指先をタッチさせることにより該タッチ位置検出センサー2.8に応じた電気信号または電圧を発生するタッチ位置入力部3.0を設け、該タッチ位置入力部3.0に対する導電路としての弹性接点脚3.8と、上方から操作するプッシュスイッチ部6.3とを上面に有する取付基板3.9を設け、該取付基板3.9に設けた支持部6.8によって、プッシュスイッチ部6.3に対応した突起6.6を下面に有するタッチ位置入力部3.0を保持した蝶番型の振動部材6.7を振動可能に保持させ、該振動部材6.7の振動によって先端でスイッチ部6.3を駆動するように該振動部材6.7の周囲の一部に設けられた切片状の突起の作動体6.9を形成し、タッチ位置検知センサー2.8のある部材に十分な圧力が加えられたときにスイッチ部6.3を押下するものである。
50

図2.9 (a) に示したスイッチでは直線上又は曲線上に連続したタッチ位置検出センサー2.8に指先をタッチさせることにより該タッチ位置検出センサー2.8に応じた電気信号または電圧を発生するタッチ位置入力部3.0を設け、該タッチ位置入力部3.0を一定方向に付勢または押し付けるための部材にワンウェイプッシュ機構7.0を使用してプッシュスイッチ部6.3のオンまたはオフを行うものとしてある。タッチ検知に関する導電路としてはケーブル3.1を用いても良いし、プッシュ機構内部を通してても良い。(b) はタッチ検知センサーを連続して2つ付設した場合、(c) はタッチ検知センサーを連続して3つ付設した場合のスイッチ形態例である。

【0037】

図3.0 (a) に示したスイッチ機構では、タッチ位置検出センサー2.8と導電路のためのケーブル3.1を設けた該タッチ位置入力部3.0および上方から操作するプッシュスイッチ部6.3を上面に配した取付基板3.9の夫々を情報処理装置筐体7.1に配設し、タッチ位置入力部3.0と一体化した弾性を持つ樹脂部7.2を上部筐体7.1より垂設された保持部7.3により筐体に係合し、該タッチ位置入力部3.0を一定方向に付勢または押し付け、弾性を持つ樹脂部7.2の弾発付勢力に抗してタッチ位置入力部3.0に十分な圧力が加えられたときにプッシュスイッチ部6.3を押下するものとしてある。

図3.0 (b) に示したスイッチ機構では、直線上又は曲線上に連続したタッチ位置検出センサー2.8に指先をタッチさせることにより該タッチ位置検出センサー2.8に応じた電気信号または電圧を発生するタッチ位置入力部3.0を設け、該タッチ位置入力部3.0が押下するための固定接点7.4と、上方から操作するプッシュスイッチ部6.3と、タッチ位置入力部3.0を保持するために垂設した軸受け7.5と、を上面に配した取付基板3.9を有し、この軸受けにより軸6.8でタッチ位置入力部3.0を左右に移動可能に保持させ、左右に切片状の突起部より成る作動体7.6を設け一対にしてシーソー型に形成しておき作動体7.6Aによりスイッチ6.3Aが、7.6Bによりスイッチ6.3Bが押下されるので2つのプッシュスイッチで二種類の入力が可能である。

【0038】

図3.1 (a) に示したスイッチでは、タッチ位置検出センサー2.8と導電路のためのケーブル3.1を設けた該タッチ位置入力部3.0および上方から操作するプッシュスイッチ部6.3を上面に配した取付基板3.9とを有し、該タッチ位置検知部3.0の両端側に垂設された支持部7.7が取付基板3.9上に設けたガイド用軸穴7.8に嵌押されて昇降可能となるよう案内支持され且つタッチ位置入力部3.0側を取付基板3.9上方の係止部3.9A側へ常時弾発付勢すべくタッチ位置入力部3.0と取付基板3.9との間に弾性体として例えればコイル状のバネ体6.2を介設させ、該バネ体6.2の弾発付勢力に抗してタッチ位置検知部3.0に十分な圧力が加えられたときに中央下部側に垂設された突起7.9によりプッシュスイッチ部6.3を押下するものとしてある。また、図3.1 (b) は、タッチ位置検知部をプッシュボタン形状に形成し、タッチ位置検出センサー2.8の下部側の支持部7.7が取付基板3.9上に設けた筒状のガイド用軸穴7.8に嵌押されて昇降可能となるよう案内支持され、タッチ位置入力部3.0と取付基板3.9との間にコイル状のバネ体6.2を介設させたものである。なお、スイッチ部8.0のみを押下することによって単にスイッチのオンオフだけを行うこともできる。図3.1 (c) のスイッチ部8.0も同様である。

さらに図3.2 (a), (b) で示すようにゴム状の弾性体8.1を用いてプッシュスイッチ6.3Bと6.3Cと2つを押下する装置、(c), (d), (e) で示すように、上下方向にバネ体6.2で付勢し、左右方向に板バネ8.2A, 8.2Bで付勢して、3つのプッシュスイッチ6.3A, 6.3B, 6.3Cを押下出来るもの、図3.3 (a) のように円形の軌跡上にタッチ位置検知センサー2.8を配し検知部全体を押下可能としたもの、同様に円形で円の中心にスイッチ5.9を付設したもの、図3.4のように弾性体によりセンサー部自体を保持し接点もしくは可動接触子を接触させるもの、図3.5のように、円形の軌跡上に展開したタッチ検知部2.8をスカート状のラバータイプ8.3を用いて可動接触子4.4を接点S側に押下できるように複数接点のスイッチ部を持たせたもの等がある。

【0039】

10

20

30

40

50

(7) 接触操作型入力装置を組み込んだ場合のコンピュータ応用システムの回路構成例

本発明の入力処理手段を搭載した応用システムの回路構成例を示せば、図36のようになにタッチ位置検出センサー部28に対して入力された指等のタッチ入力は電気信号もしくは電圧などによりタッチ検知回路84により検知され、演算制御回路85（CPU中央演算装置、DSPデジタルシグナルプロセッサ、MPUマイクロプロセッサ、メモリ等を含むとともにできる）により認識され、場合によりカーソルを表示回路を通して表示させ、処理内容によっては音声回路86を通してスピーカ部50から音声を発生させ、発光体87により発光させることもできる。応用システムが演算制御回路85に同時に搭載されていない場合は、さらに応用システムに情報出力をを行う。応用システムが演算制御回路に同時に搭載されている場合は点線部の出力はない。

10

【0040】

(8) 本発明の携帯型情報端末の実施例

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明するに、文字あるいはグラフィックの表示手段と、演算装置と、メモリとを備える携帯型情報端末装置において、キートップに接触検出センサーを付設し、物理的な移動または押下により、接点のオンまたはオフを行うスイッチ手段を持つキーの複数で構成され、

各々のキーにタッチすることによって発生する接触イベントの検知と、スイッチ手段による接点状態の検知と、を行うキーボードを付設し、タッチパットを付設し、キートップにある接触検出センサーの集合体とタッチパットとによって、キーボードとタッチパットに接觸した指もしくは手のひらの移動を検知する手段を持つ携帯型情報端末装置である。

20

携帯型情報端末としては、ハンドヘルドコンピュータ、ラップトップコンピュータ、ノートブック型コンピュータという名称で呼ばれるパソコンコンピュータや携帯型ワープステーションなどが代表的なものであるが、本願では携帯型パソコンコンピュータの例を示す。図37は接触操作型キーボード90を組み込んだ本願の携帯型情報端末の外観図である。携帯に当たっては液晶等のパネルディスプレイ93付設部を手前側に折り畳み持ち運ぶ、91はクリックボタンである。周辺記憶装置部94にはフロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブ等が組み込まれており、PCカードスロット92にはPCM-CIA仕様のCardBus規格等のインターフェイス等が組み込まれる。その他組み込まれる要素技術はあまりにも多岐にわたるので省略する。

図38の(a)は左右に分断されたタッチパット96A、96Bを手前側のパームレスト部(手のひらを置く部位)に付設した本願の携帯情報端末である。(b)はパームレスト部にタッチパット96を付設した例である。この図38の場合ではタッチ位置検出部の面積がキーボードのみの場合よりも大きくとれるので検出精度を上げることもできる。

30

【0041】

図39は本願の実施の形態における携帯型情報端末装置の回路構成の一例を示すブロック図である。

まず、中央演算プロセッサとしてCPU97があり、システムバス106上に接続されている。このシステムバスに、メモリ98、表示回路107と液晶パネル89、音声回路86とスピーカ50、シリアル通信回路99とモデム100、I/Oインターフェイス回路101とハードディスク102とフロッピーディスク103、パラレル通信回路104とプリンタ105、さらにはキーボード制御部との接続のための通信回路54等を接続する。

40

キーボード部については、接触検出部55を付設し接触・非接触検出センサーを交差させて配置し、接触・非接触検知回路53により信号を取り込み、コントロール回路52から通信インターフェイス回路54を経由して中央演算プロセッサを含むシステムバスへ向かって接触イベントもしくは接触位置データ等を送出する。キーボード及び入力装置の圧力スイッチ部56はキーボードエンコーダ回路57により交差する圧力スイッチの接点から入力を取り込みコントロール回路を経由して通信インターフェイス回路からデータを送出する。中央演算プロセッサ側とは直接パラレル接続する事も可能であるし、USB(ユニバーサルシリアルバス)等の形式で接続しても良い。

50

タッチパットを搭載した場合、点線部に括られたタッチパット部 110 が付設されその中にはタッチパットコントロール回路 109 とタッチパット 108 が設けられる。このタッチパットをキーボード上の接触検知部と組み合わせて検出制御に用いても良い。

発光および音声を発生させる場合は、例えば接触イベントなどと同期してコントロール回路より LED 5.1 やスピーカ 5.0 からこれを発生させる。発光・発音についてではシステムバス側で出しててもよい。

中央演算プロセッサや主メモリを含む回路ブロックは近年では開発が進みバス構造についても更に複雑化が進んでいる。また、他の周辺回路やインターフェイス規格などの要素技術についても改良が進んでいる。しかし、本願ではこれらを新規に提案することも、特別に組み合わせることも、主ではないのでこれ以上の要素技術説明は行わない。

10

【0042】

(9) 本発明の P D A の実施例

P D A (パーソナルデジタルアシスト) とは一般的にはキーボードが無く液晶ディスプレイと、該ディスプレイ上の透明タッチパネルと、プッシュキーと、筐体を持ち、内部には中央演算プロセッサと、メモリと、外部機器と通信するためのインターフェイス回路と、カードバス等のインターフェイススロット等を持つ携帯情報端末である。搭載ソフトウェアには、PIM (パーソナルインフォメーションマネージャー) として個人情報管理、例えばスケジュール管理や住所録管理を行うもの等が搭載され、デスクトップパソコンとの通信ソフトウェアやインターネット接続機能を持つものがある。本願では、この入力部として透明タッチパネルへの指による接触により表示画面が汚れたり、ペンタッチのために両腕が塞がれたりすることをさけるために接触入力装置部を組み込んで構成している。たとえば、図 4.0 (a) の如く装置前面にプッシュスイッチ付き接触操作型入力装置 112 をくみこんだり、(b) の如く円形の接触検知部 8.0 を付設したり、側面に図 4.1 (a) の如く側面にプッシュスイッチ付き接触操作型入力装置を付設して片手で操作が可能な構成としたり、(b) の如く通信手段を組み込んで尚かつ前面にタッチ検知部 5.8 と確定スイッチ 5.9 を設げたりしている。

20

図 4.2 は本願の実施の形態における P D A と、I C カード型情報端末と、P C カード型情報端末と、I C カードの基本回路構成の一例を示すブロック図である。

これらの情報端末では共通して中央演算プロセッサ 9.7 を持ちメモリとして RAM 1.1.7 と ROM 1.1.8 を持つ、プログラムワークエリアとしてランダムアクセスメモリは最低限必要であると考えられるが、ROM については再書き込みの可能なタイプなど複数の方式のものが使用可能である。更にこれに加えて表示部 8.9 と表示回路、又、プッシュキーやテンキーのための制御回路 11.9 と入力キー 11.4、本願の特徴である接触操作機構を構成するタッチ検知回路 8.4 と軌跡上に展開されるタッチセンサー部 5.8 と確定スイッチ 5.9 である。特に P D A ではパーソナルコンピュータとの通信のためにパラレルもしくはシリアル I/O ポートを設ける。P C カードの場合はパソコンのカードソケットに挿入接続する為にカードバスインターフェイス回路 11.6 とコネクタを設ける。クレジットカード型の I C カードではこの通信用のコネクタのためのインターフェイス回路は付設しなくてよい。

30

【0043】

(10) 本発明の I C カード型情報端末及び P C カード型情報端末の実施例

40

図 4.3 (b) のように I C カード型情報端末は通常クレジットカードと同様なサイズで CPU とメモリを持ち上記基本回路で構成されている。ここでは、この I C カード型情報端末としてパーソナルコンピュータ等の P C カードスロットに挿入できるものを示す。(a) では日本アイ・ビー・エム株式会社の商品でチップカード VW-200 の如く二つ折りにして持ち運び、該操作時に広げパソコンのスロットに挿入できるもので、該操作部に直線状の軌跡に接触検知センサーを付設した例である。(b) は P D A 機能を持つ P C カードの入力操作部に直線状の軌跡に接触検知センサーを付設した例である。(c) は携帯電話もしくはポケットベル機能をもった P C カードソケットを持つ情報端末で側面に直線状の軌跡に接触検知センサーを付設した例である。

50

【0044】

(1.1) 本発明の I C カードの実施例

I C カードは半導体のダイチップをそのまま薄膜状の基板にワイヤーボンディングあるいは半田付けまたは接着し、更にこの基板を樹脂で封入したり、フィルム状のシートで挟み込んだり、硬質の金属板とフィルム状のシートで挟み込んだり、して構成する。

図 4-4 はクレジットカード型の I C カードで該操作面に (a) ではタッチ検出密度を不均一にした直線状の軌跡にタッチ検知センサーと太陽電池を付設した例である。(b) は複数の直線状の軌跡にタッチ検知センサーを付設した例である。(c) は太陽電池と円形の軌跡にタッチ検知センサーを付設した例である。(d) は横方向に直線状の軌跡にタッチ検知セジサーを付設した I C カードを操作している操作図である。特に I C カード上の軌跡の上に疎密を持たせてタッチ操作を行わせるものについては入力時、指先のタッチ位置によって入力イベント数が異なるので指先による繊細な入力操作を可能としている。このときタッチ距離とタッチイベント数は比例していない。

【0045】

(1.2) 接触操作型入力装置を組み込んだ本発明の携帯型情報端末の実施例

図 4-5 はタッチパットに隣接もしくは一体成形した線上に配置したタッチ位置検知センサーの斜視図であり、このようにタッチパットに隣接配置することにより、組立時にコストダウンが計れる。図 4-6 (a) はタッチパットと入力装置を一体成形してパソコン筐体部によりタッチパットと入力装置とを区切ったもの、点線部は一体成形した同一素材を用いたタッチパットである。(b) はタッチパット上に軌跡状の入力装置を着色表示したもの、(c) は線を描いて上下左右に軌跡状の入力装置部を区別可能としたもの、(d) は入力装置部を下部に配置したもの、(e) は上部に配置したもの、(f) は周囲に配置したものである。また、着色表示や線を印刷したものについては入力装置を用いない場合はタッチパットとして用いることが出来る。

幾つかの例示的な例について本発明を説明したが、本発明の精神と範囲を逸脱することなく修正を行えることを、当業者なら理解するであろう。上記の実施例は、例として示したものにすぎず、特許請求の範囲を制限するものとして解釈すべきではない。

【発明の効果】

【0046】

本発明によれば、キーボードを付設する構造の情報端末において、キートップに付設したタッチ検知部をもちることにより、キーボードから手を離さずにポインティング操作が可能となり、情報処理端末の操作性が向上する。また、PDA (パーソナルデジタルアシスト)、P C カード型情報端末、I C カード型情報端末、クレジットカードサイズの I C カード等の携帯情報端末において指のタッチによって連続して複数のイベント入力をを行う操作が可能となる。

特に、回転操作型入力装置を用いることが不可能な I C カード等の薄型の情報処理装置において複数項目の選択や入力に対する操作性が向上する。

さらに、タッチパットと一体成形した 1 次元上の変移値入力装置を組み込むことにより操作性とメンテナス性とコストパフォーマンスに優れた携帯情報端末を実現する。

【図面の簡単な説明】

【0047】

【図 1】 本発明の実施の形態における静電誘導式検知方式の回路構成図である。

【図 2】 本発明の実施の形態における光学式検知方式の回路構成図である。

【図 3】 本発明の実施の形態における光学式検知手段を示す発光素子と受光素子との配置図であり、(a) は断面図、(b) は平面図である。

【図 4】 本発明の実施の形態における光学式検知手段を示す発光素子と受光素子との他の配置図である。

【図 5】 本発明の実施の形態における直流抵抗検知方式の回路構成図である。

【図 6】 本発明の実施の形態における抵抗膜式検知手段を示した概念構成図であり、(a) は抵抗膜の配置図、(b) は電圧分布を説明する説明図である。

10

20

30

40

50

【図 7】 同じく抵抗膜式検知手段を示した回路図である。

【図 8】 本発明の実施の形態における可動電極式検知手段を示すものであり、(a)は断面図、(b)は回路構成図である。

【図 9】 本発明の実施の形態における可動接触子方式検知手段を示す回路構成図である。

【図 10】 本発明の実施の形態における可動接触子方式検知手段を示すものであり、(a)は説明図、(b)は I C カードに付設した状態を示す斜視図である。

【図 11】 本発明の実施の形態において付設するキートップにタッチ検知部の設けられたキー・スイッチの斜視図である。(a)キートップのセンサーの付いたもの、(b)複数のセンサーの付いたもの、(c)、(d)タッチセンサー手段の付いたものである。

【図 12】 本発明の実施の形態において付設するキートップにタッチ検知部の設けられたキー・スイッチの一例の断面図である。

【図 13】 本発明の実施の形態において付設するキートップにタッチ検知部の設けられたキー・スイッチの他の例の断面図である。

【図 14】 本発明の実施の形態において構成するキーボードあるいは入力装置の断面図で、(a)はキートップに複数の接触検出センサーを設けたキー複数によって構成したものとの断面図、(b)はキートップに 1 つの接触検出センサーを設けたキー複数によって構成したものとの断面図、(c)はキートップに分割したタッチパットを配設したキー複数によって構成したものとの断面図、(d)キーボードの下部に非接触検出センサーを配設したものの断面図である。

【図 15】 本発明の実施の形態におけるキーボードの一例を示す平面図であり、(a)は全面にキートップに接触検出センサーを設けたキーを配設したもの、(b)は手のひらの置かれる中心部から放射状の軌跡にセンサーを配設したものである。

【図 16】 本発明の実施の形態におけるキーボードの他の例を示す平面図であり、(a)は直線上の軌跡に接触検出センサーを配設したもの、(b)は手のひらが主に接触する部位に左右に分けて配設したものである。

【図 17】 本発明の実施の形態におけるキーボードの他の例を示す平面図であり、(a)はグリックボタンを親指の位置に複数配設したもの、(b)はクリックボタンを親指の位置に複数斜めに配設したものの例である。

【図 18】 本発明の実施の形態におけるキーボードの操作図である。(a)は矢印カーサルの時計回りに回転している状態の表示画面であり、(b)は左手をホームポジションに置いたまま右手のひらを回転して倣って移動している操作図である。

【図 19】 本発明の実施の形態におけるキーボードの操作図である。(a)はワードプロセッサ等のスクリーンエディット時手のひらの移動操作で画面表示内容がスクロールしている状態の図であり、(b)と(c)は左手をホームポジションに置いたまま上から下へ右手のひらを倣って移動している操作図である。

【図 20】 本発明の実施の形態において、キートップにタッチ検知部の設けられたキー・スイッチを付設した情報端末の概略図である。(a)は直線上に並べたものの正面図、(b)は交差する軌跡上に並べたものの正面図、(c)は直線上に二列に並べたものの正面図、(d)は三列に並べたものの正面図である。

【図 21】 本発明の実施の形態において、キートップにタッチ検知部の設けられたキー・スイッチにより構成された情報端末の操作図である。(a)は正面図、(b)、(c)上方から下方に向かって指を倣っている操作を示し、イベント入力に従って LED が点滅している状態の操作図、(d)は圧力スイッチ部の押下操作を表す。

【図 22】 本発明の実施の形態におけるキーボード及び入力装置の回路構成を示すブロック図である。

【図 23】 本発明の実施の形態におけるタッチ検知センサーの配置図で、(a)は直線状に配置し平行してスイッチ手段を設けたもの、(b)は円弧曲線状に配置し隣接してスイッチ手段を設けたもの、(c)は直線状に垂直に配置したもの、(d)は検知密度の異なるものを複数平行して配置した図である。

10

20

30

40

50

【図2-4】 本発明の実施の形態において付設するタッチ検知センサーの疎密を持った配置の概念図である。実際にはアナログ式に近い場合はイベント発生の点ではなく不均一な長さである。

【図2-5】 本発明の実施の形態において付設する可動接触子方式の疎密を持ったタッチ検知スイッチの(a)は断面図、(b)は斜視図である。

【図2-6】 本発明の実施の形態におけるタッチ検知センサーの配置図で、(a)、(b)、(c)は平面図、(d)、(e)、(f)斜視図である。

【図2-7】 本発明の実施の形態において付設する横スライド式プッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の一例を示す図である。

【図2-8】 同じくプッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の更に他の例の斜視図(10 b)である。

【図2-9】 同じくプッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の更に他の例の斜視図である。

【図3-0】 本発明の実施の形態において付設するプッシュスイッチ付きの接触操作型機構の一例を示す(a)断面図、(b)2スイッチ式の断面図である。

【図3-1】 同じくプッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の他構造の断面図であり、(a)は平面型電子部品、(b)および(c)はボタン型電子部品を示す。

【図3-2】 同じくプッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の他の例の図である。(a)、(b)は二点式、(c)、(d)、(e)は三点式である。

【図3-3】 本発明の実施の形態において付設するプッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の円形の軌跡を持つ型の平面図と概略図であり、(a)はセンサーとスイッチ一体型、(b)はセンサーとスイッチ分離型である。20

【図3-4】 本発明の実施の形態において付設するスイッチ手段を示すもので、(a)は断面図、(b)は平面図である。

【図3-5】 同じくプッシュスイッチ付きの接触操作型電子部品の他の例の図で、円の軌跡の配置した接触検知部を持ちスイッチ部複数を持つもので概略図である。

【図3-6】 本発明の実施の形態におけるタッチ検知入力装置の回路構成を示すブロック図である。

【図3-7】 本発明の実施の形態における接触操作型キーボードを組み込んだ携帯型情報端末の外観を表す斜視図である。

【図3-8】 本発明の実施の形態における接触操作型キーボードとタッチパットを組み込んだ携帯型情報端末の外観を表す斜視図で(a)はタッチパット2つを組み込んだもの(b)はタッチパット1つを組み込んだものである。

【図3-9】 本発明の実施の形態における携帯型情報端末装置の回路構成を示すブロック図である。

【図4-0】 本発明の実施の形態におけるPDAの斜視図(a)とICカード型情報端末(b)の斜視図である。

【図4-1】 本発明の実施の形態における携帯型情報端末装置の斜視図である。

【図4-2】 本発明の実施の形態におけるPDAと、ICカード型情報端末と、PCカード型情報端末と、ICカードの基本回路構成を示すブロック図である。40

【図4-3】 本発明の実施の形態におけるPCカード型情報端末の斜視図である。

【図4-4】 本発明の実施の形態におけるクレジットカード型のICカードの(a)、(b)、(c)は正面図、(d)は操作図である。

【図4-5】 本発明の実施の形態におけるタッチパット付設部に隣接した直線状軌跡に配置されたタッチ位置検知センサーの搭載された携帯型情報端末装置の斜視図である。

【図4-6】 本発明の実施の形態における携帯型情報端末装置のタッチパット付設部に隣接もしくは一体化したタッチ位置検知センサーの平面図である。

【符号の説明】

【0048】

1…パルス発生回路

2…スキャンドライバ回路

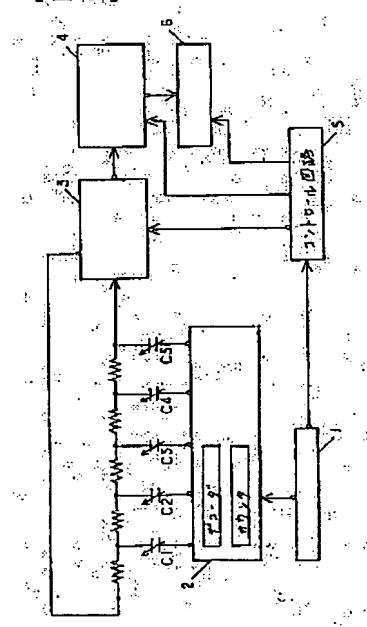
50

- 3 … C.R. 移相発振回路
 5 … コントロール回路
 7 … 発光素子
 9 … デマルチブレーカ
 1.1 … 判定回路
 1.3 … A/D 変換器
 1.5 … 抵抗膜
 1.7 … 電圧測定器
 1.9 … カウンタ
 2.1 … スペーサ
 2.3 … 固定電極
 2.5 … 導電路パターン
 2.7 … フィルム状可動部
 2.9 … タッチパッド
 3.1 … ケーブル
 3.3 … 端子
 3.5 … キートップ保持部
 3.6 … キートップに接触検出センサーを持ったキー
 3.7 … 接点
 3.9 … 基板
 4.1 … ガラス管
 4.3 … 磁石
 4.5 … 弹性体
 4.7 … 非接触センサー
 4.9 … 表示部
 5.1 … 発光素子 LED
 5.3 … 接触・非接触検知回路
 5.5 … 接触検出部
 5.7 … キーボードエンコーダ回路
 5.9 … スイッチ
 6.1 … 弹性接点脚
 6.3 … プッシュスイッチ部
 6.5 … 搖動部材保持部
 6.7 … 搖動部材
 6.9 … 切片状の突起の作動体
 7.1 … 上部筐体
 7.3 … 垂設された保持部
 7.5 … 軸受け
 7.7 … 支持部
 7.9 … 突起
 8.1 … ゴム状の弹性体
 8.3 … スカート状のラバーベース
 8.5 … 演算制御回路
 8.7 … 発光体
 8.9 … 表示部
 9.1 … クリックボタン
 9.3 … パネルディスプレイ
 9.5 … 携帯型情報端末バームレスト部
 9.6 … タッチパッド
 9.8 … メモリ
- 4 … 周波数比較回路
 6 … 判定回路
 8 … 受光素子
 1.0 … マルチブレーカ
 1.2 … コントロール回路
 1.4 … 金属接触接点スイッチ
 1.6 … 電極
 1.8 … コントロール回路
 2.0 … デコーダ
 2.2 … 可動電極
 2.4 … 突起
 2.6 … 導体
 2.8 … 接触検出センサー
 3.0 … 接触検出センサー付設部
 3.2 … 端子
 3.4 … ワンウェイプッシュ機構
 3.8 … 弹性接点脚
 4.0 … バネ体
 4.2 … 接点
 4.4 … 可動接触子
 4.6 … ケーブル用ソケット
 4.8 … クリックボタン
 5.0 … スピーカ
 5.2 … コントロール回路
 5.4 … 通信インターフェイス回路
 5.6 … 圧力スイッチ部
 5.8 … タッチ検知部
 6.0 … 円形の軌跡状接触検出センサー
 6.2 … バネ体
 6.4 … プッシュスイッチ部押下用突起
 6.6 … 突起
 6.8 … 支持部
 7.0 … ワンウェイプッシュ機構
 7.2 … 弹性を持つ樹脂部
 7.4 … 固定接点
 7.6 … 作動体
 7.8 … ガイド用軸穴
 8.0 … スイッチ部
 8.2 … 板バネ
 8.4 … タッチ検知回路
 8.6 … 音声回路
 8.8 … 演算制御回路
 9.0 … 接触操作型キーボード
 9.2 … P.C.カードスロット
 9.4 … 周辺記憶装置部
 9.7 … 中央演算プロセッサ
 9.9 … シリアル通信回路
- 10
- 20
- 30
- 40
- 50

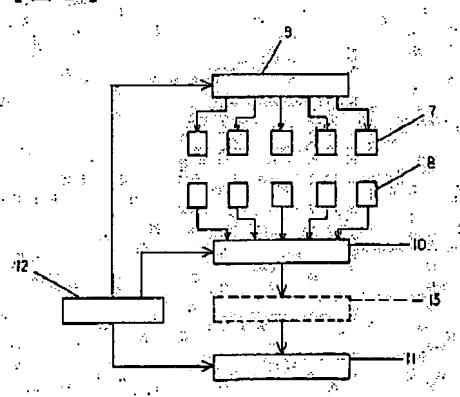
- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1.0.0…モニタ | 1.0.1… I/Oインターフェイス回路 |
| 1.0.2…ハードディスク | 1.0.3…フロッピーディスク |
| 1.0.4…パラレル通信回路 | 1.0.5…プリンタ |
| 1.0.6…システムバス | 1.0.7…表示回路 |
| 1.0.8…タッチパッド | 1.0.9…タッチパットコントロール回路 |
| 1.1.0…タッチパッド部 | 1.1.1…アンテナ |
| 1.1.2…プッシュスイッチ付き接触操作型入力装置 | 1.1.2…入力キー |
| 1.1.3…PCカードコネクタ | 1.1.6…カードバスインターフェイス回路 |
| 1.1.5…パラレルI/Oポート | 1.1.8…R.O.M |
| 1.1.7…R.A.M | |
| 1.1.9…テンキーのための制御回路 | |
| 1.2.0…太陽電池 | |
| 1.2.1…1次元上変移検知センサー転用部 | |

10

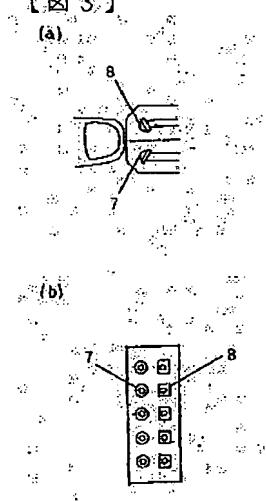
【図1】



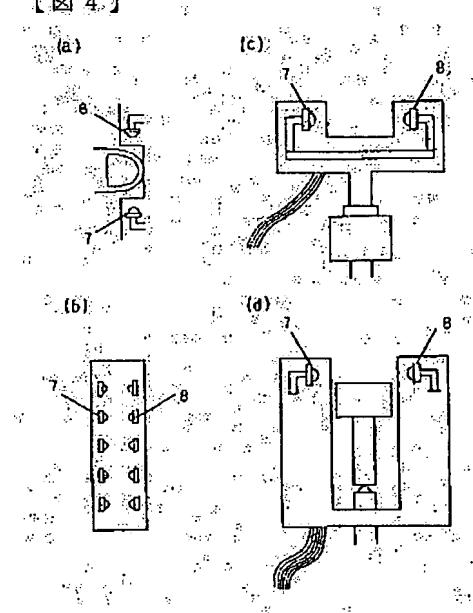
【図2】



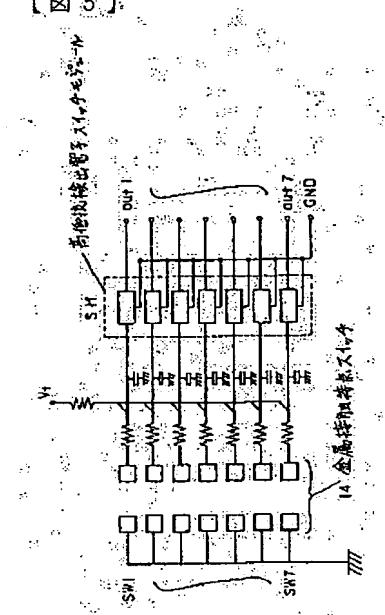
【図3】



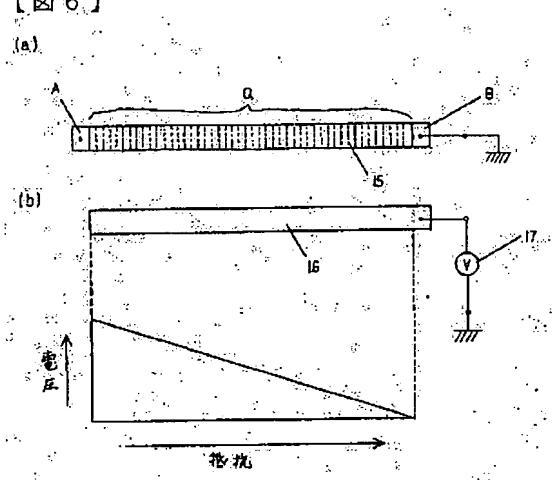
【図4】



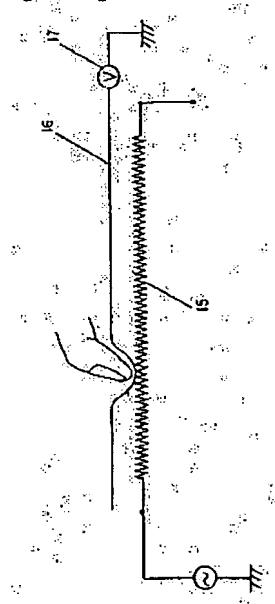
【図5】



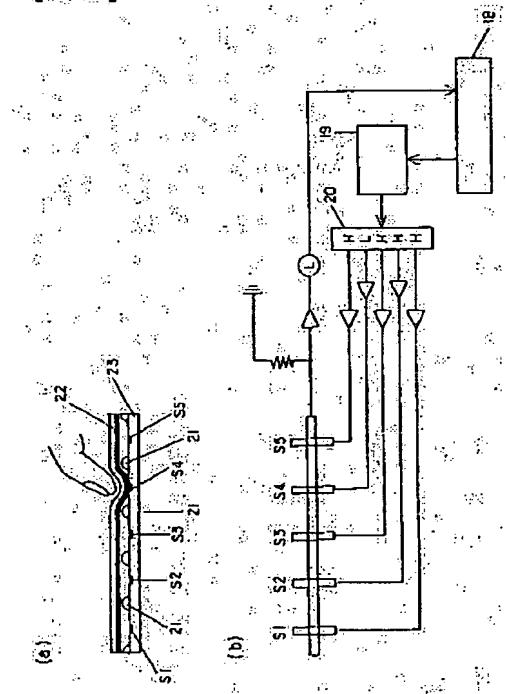
【図6】



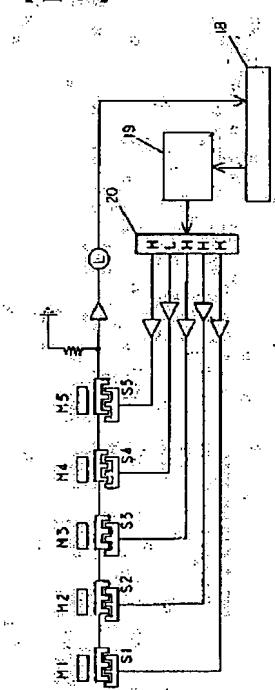
[図 7]



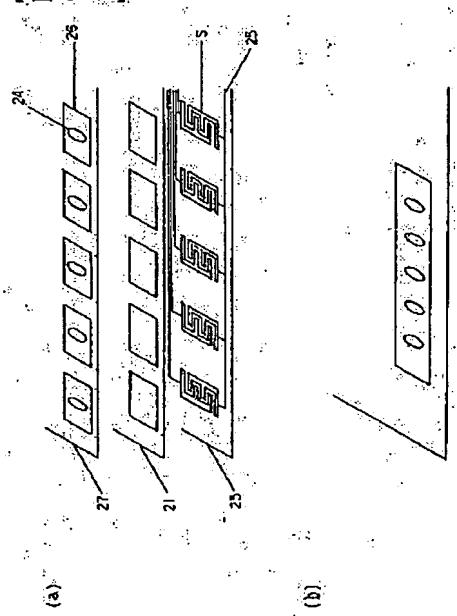
[図 8.]



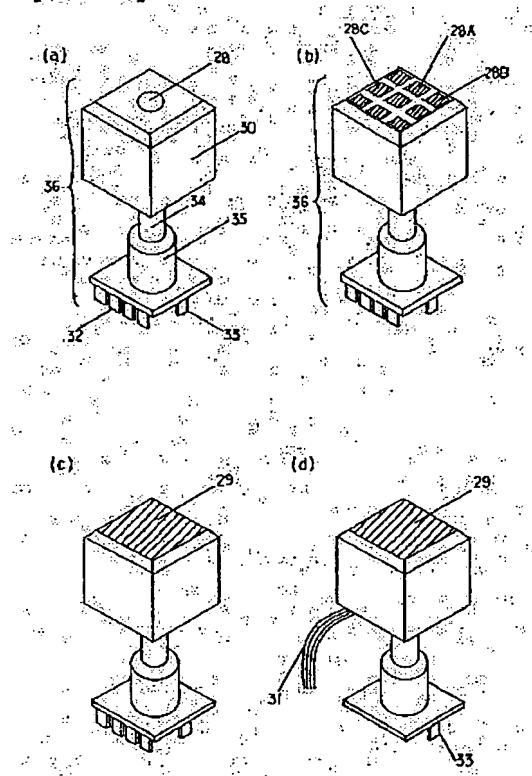
[図 9.]



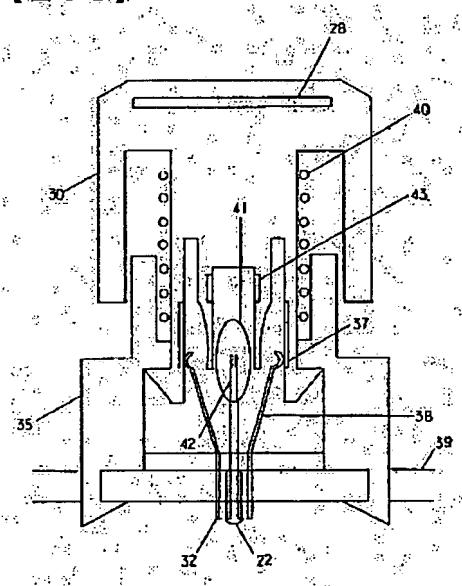
[図 10.]



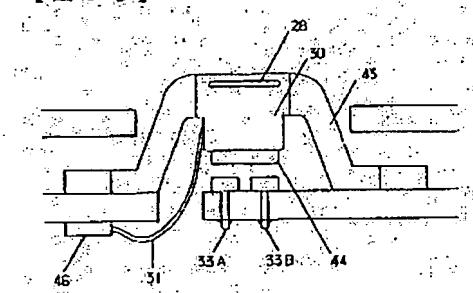
【図1(1)】



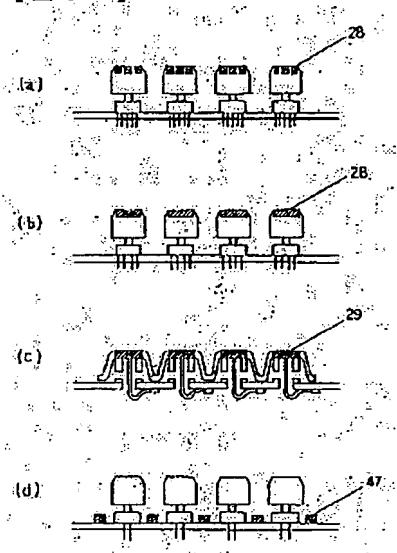
【図1(2)】



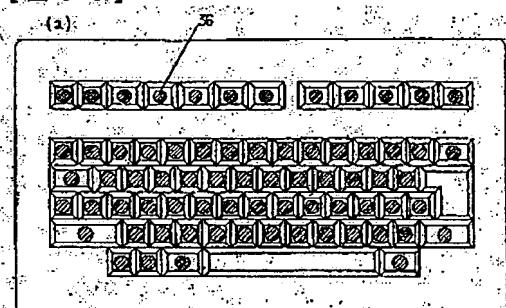
【図1(3)】



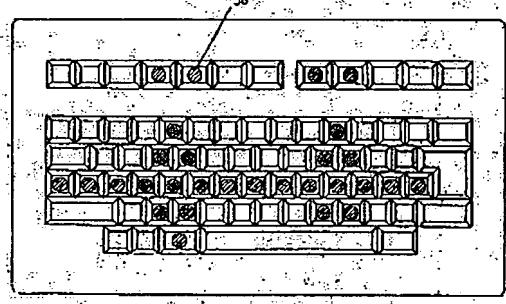
【図1(4)】



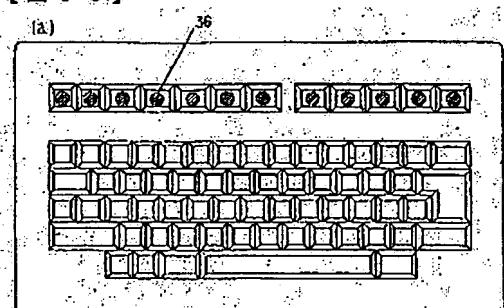
[図15]



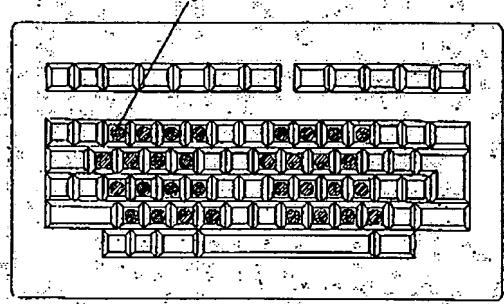
(b)



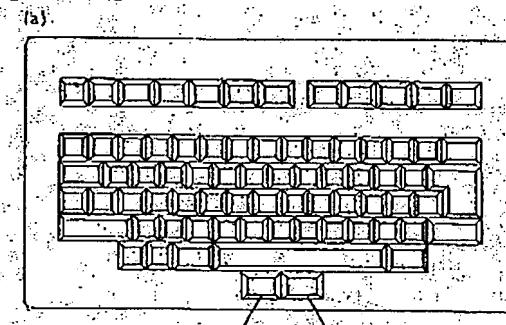
[図16]



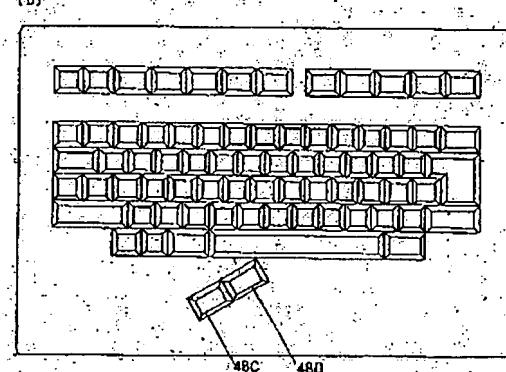
(b)



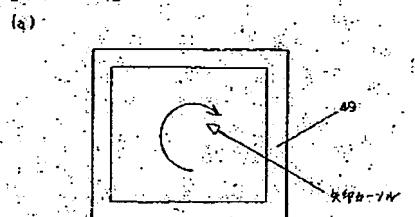
[図17]



(b)



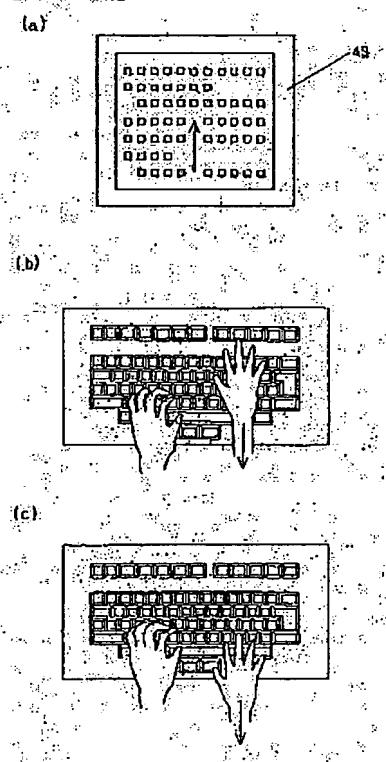
[図18]



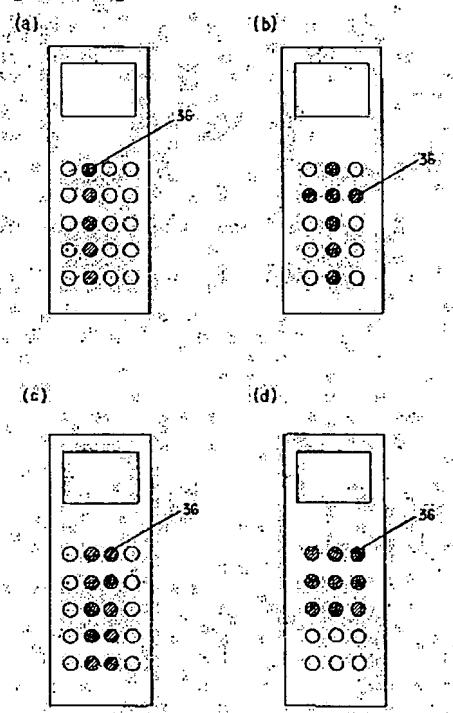
(b)



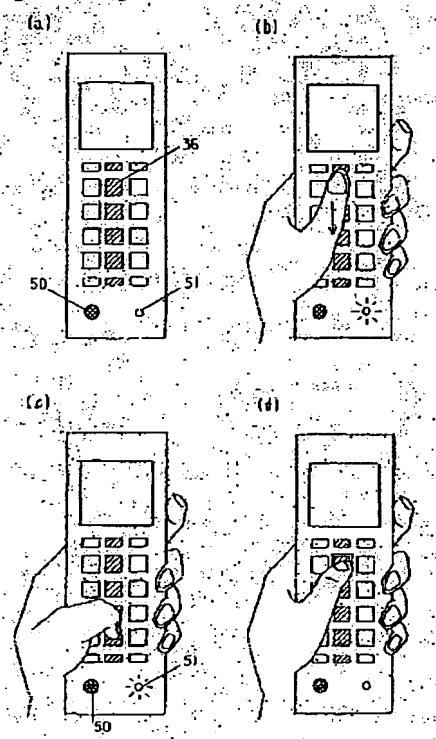
[図19]



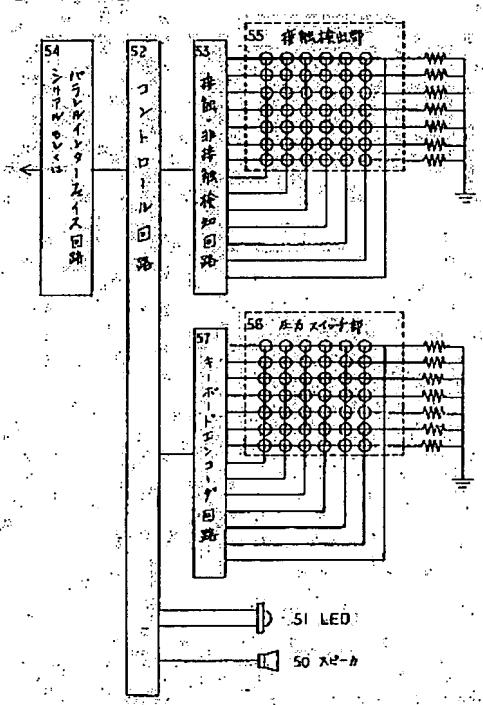
[図20]



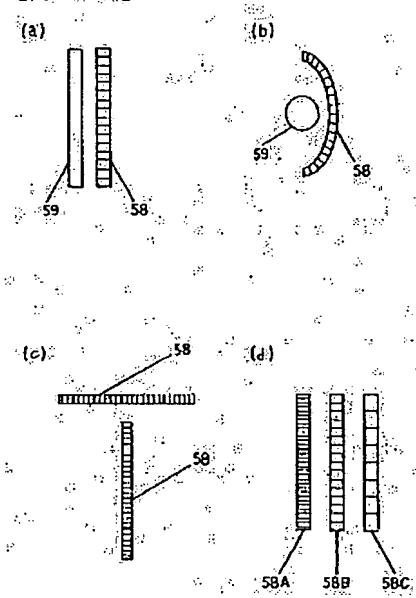
[図21]



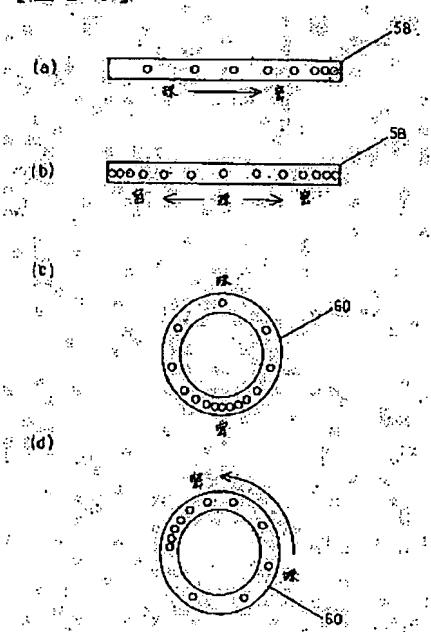
[図22]



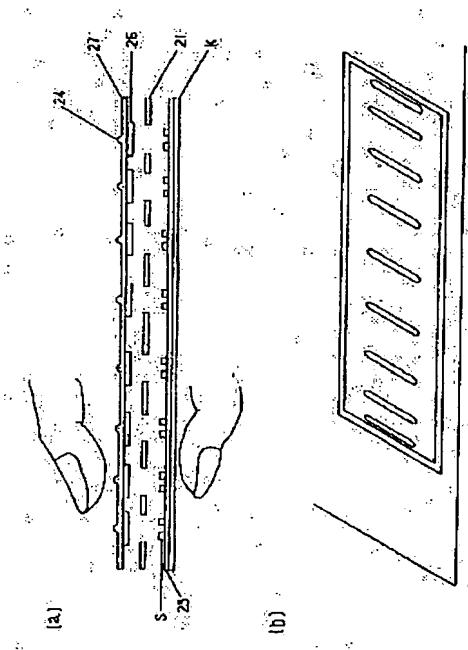
【図2.3】



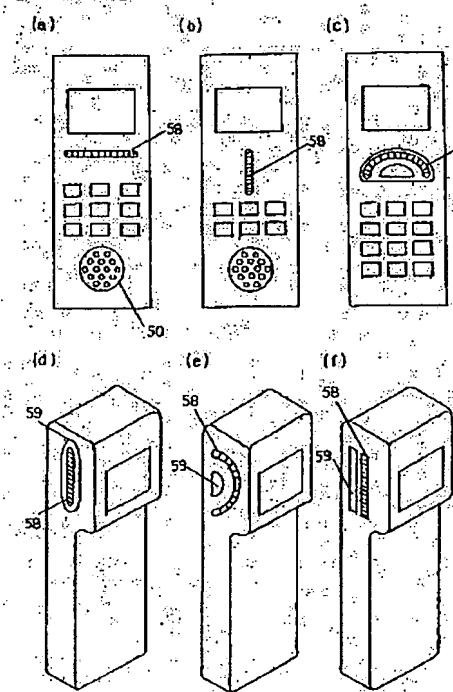
【図2.4】



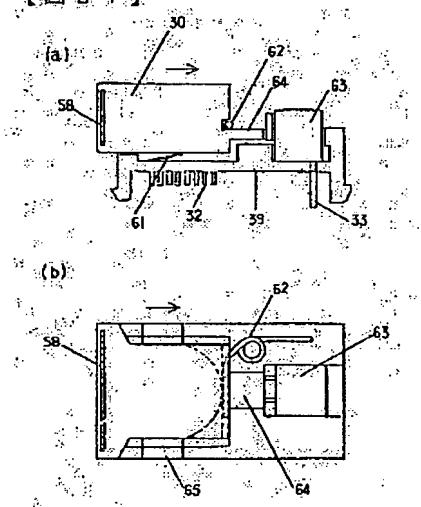
【図2.5】



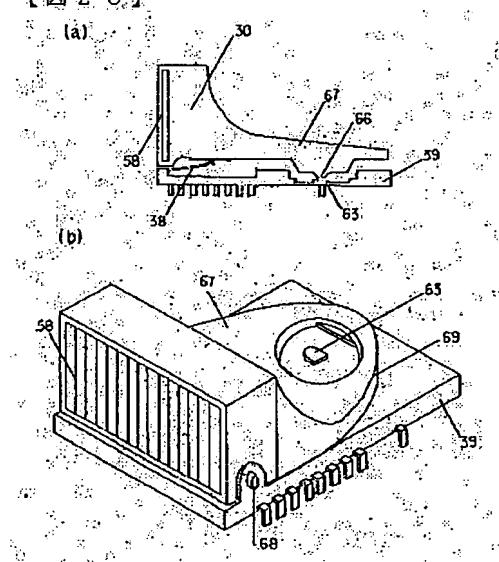
【図2.6】



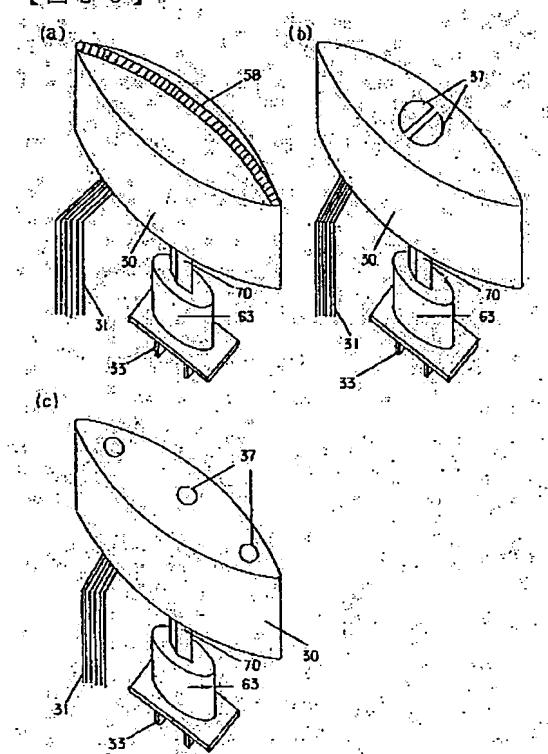
【图27】



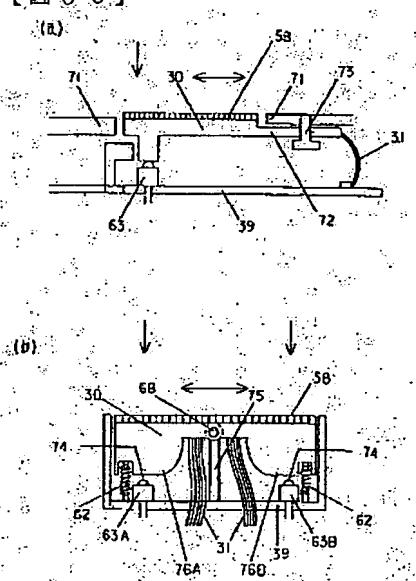
[图 2-8]



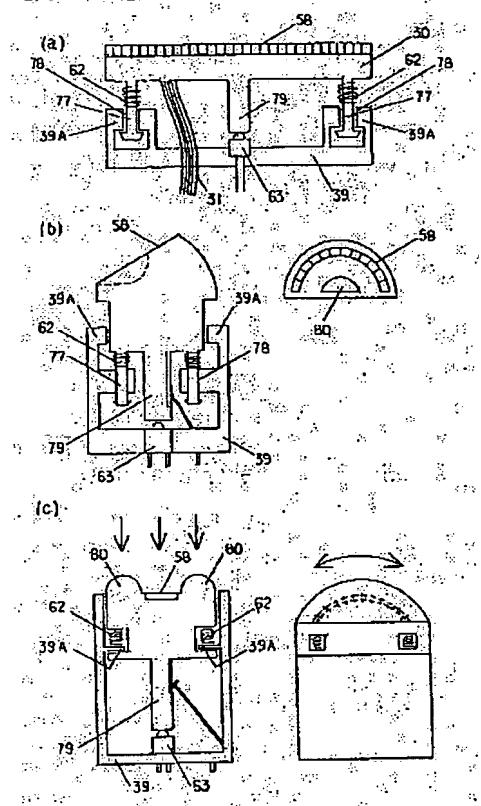
【图2-9】



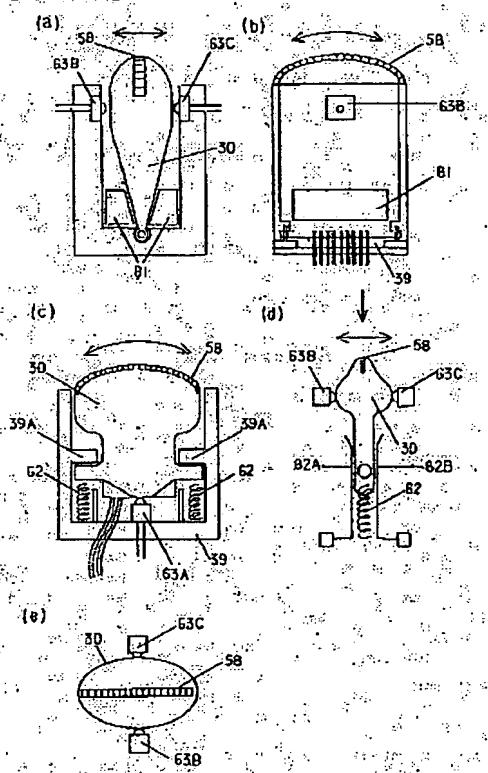
〔図30〕



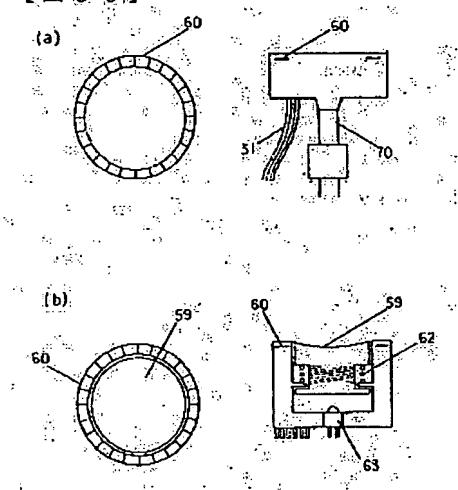
【図3.1】



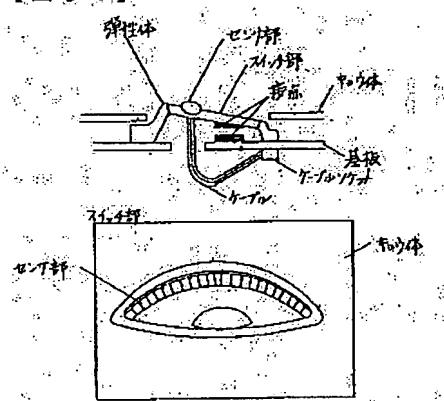
【図3.2】

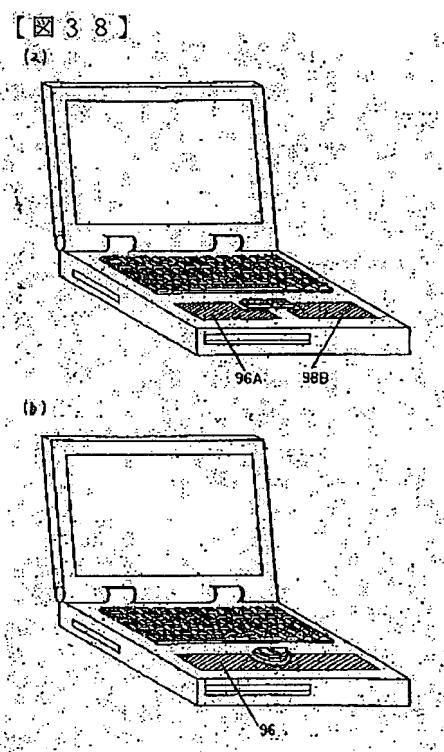
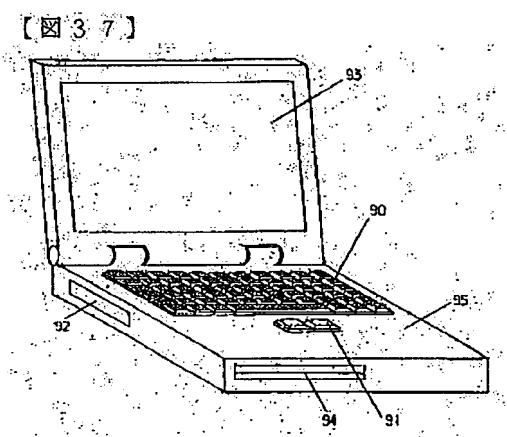
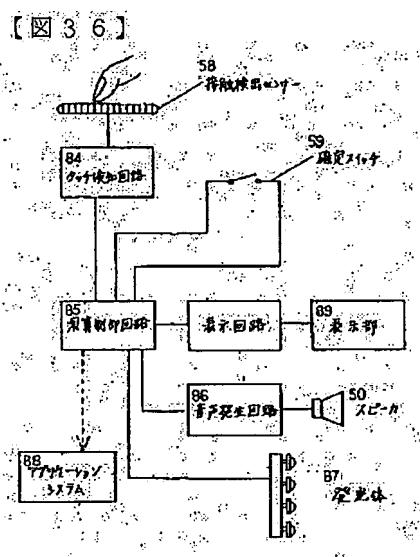
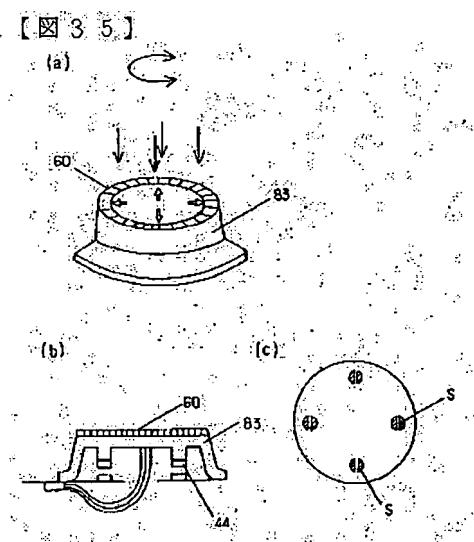


【図3.3】

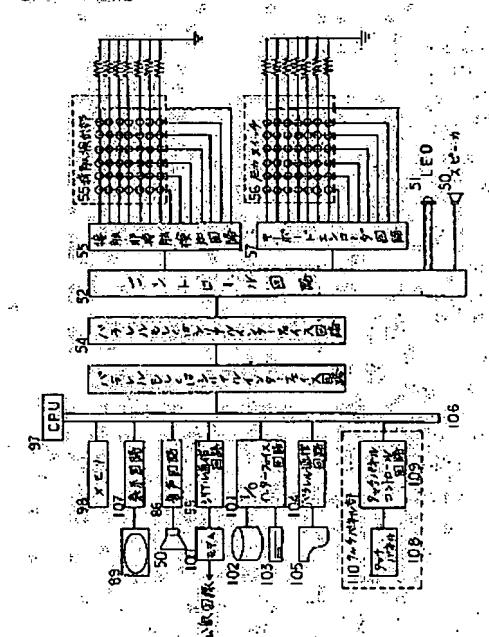


【図3.4】

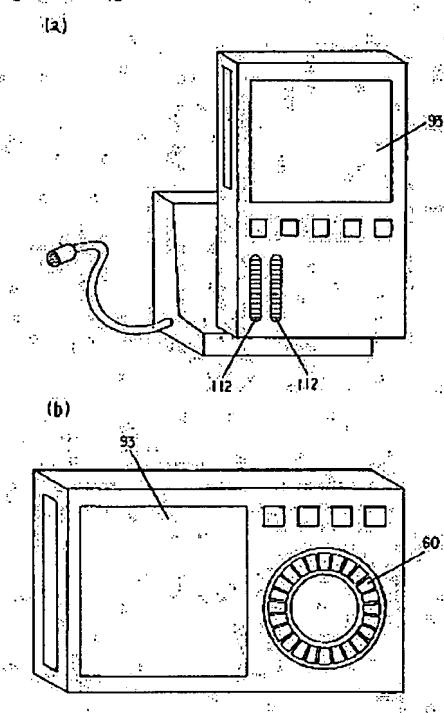




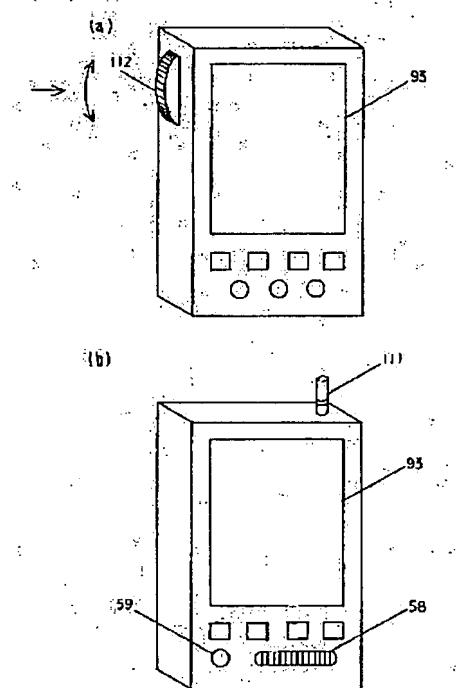
【図3-9】



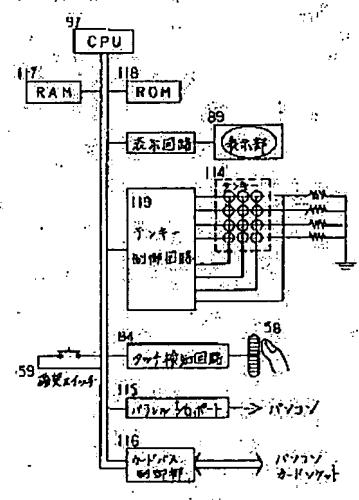
【図4-0】



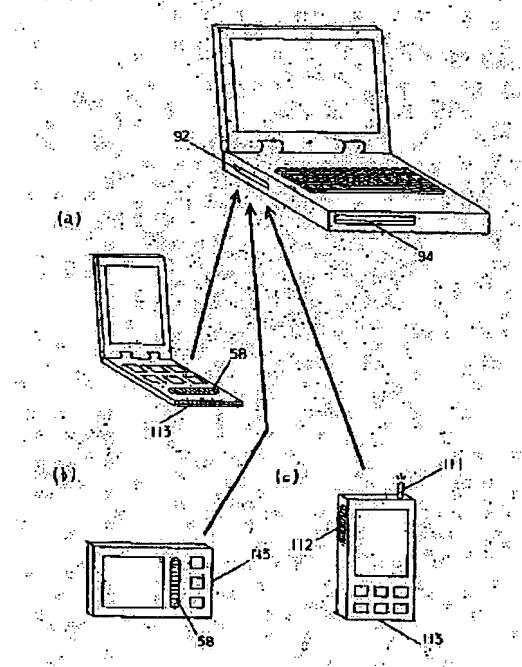
【図4-1】



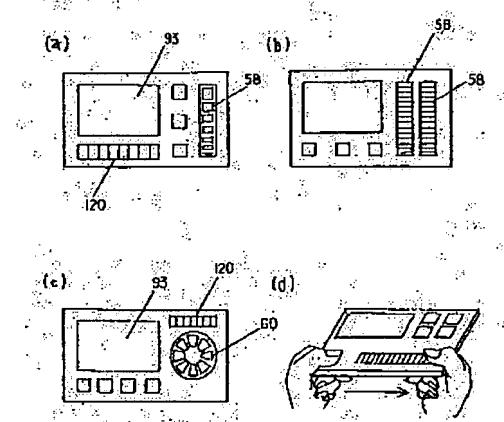
【図4-2】



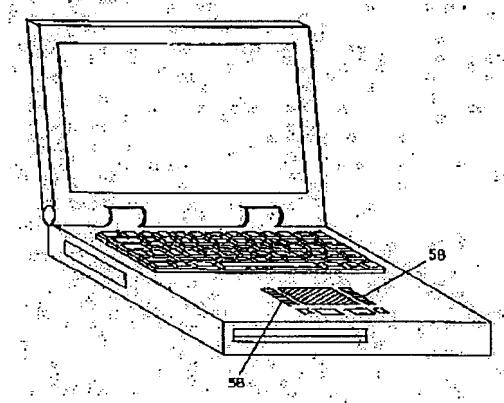
[図4-3]



[図4-4]



[図4-5]



[図4-6]

